



# 仙台市 確かな学力 育成プラン 2023

～すべての子どもたちの  
可能性を広げるために～

令和5年3月  
仙台市教育委員会

## はじめに

平成30年3月に「仙台市確かな学力育成プラン2018」を策定し5年が経過しました。

この間、人工知能（AI）やIoTなどの急速な技術革新やグローバル化、多様性の進展に加えて、感染症の流行、少子高齢化など、社会の変化が加速する中で、教育を取り巻く環境も大きく動いています。将来が、複雑で予測困難な時代になってきているからこそ、子どもたちには、様々な変化を前向きにとらえ、自ら未来を切り拓く力が求められています。

また、現行の学習指導要領では、育成を目指す3つの柱として、「生きて働く『知識・技能』の習得」、「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」が示され、「生きる力」を育む教育活動が求められています。

こうした状況を踏まえ、本市においては令和3年3月に「仙台市教育構想2021」を策定し、本市教育が目指す理念と方針を新たに決めました。現在、教育構想に基づき、「人がまちをつくり、まちが人を育む学びの循環のもと、たくましく、しなやかに自立する人を育てます」の理念のもと、様々な教育施策を展開しており、「確かな学力」はその理念の実現に向けた大切な要素の一つとして欠かせないものです。

本プランの策定に当たっては、「仙台市確かな学力育成プラン2018」に基づく取組の課題や、児童生徒の姿を踏まえた検討委員会での協議から、「確かな学力」を育成する上で、児童生徒の内発的な学習意欲や非認知的な能力を育むことが重要であるとの考えに至り、改めて仙台自分づくり教育に注目しました。本プランの推進におきましても、これまで仙台自分づくり教育で育ててきた「たくましく生きる力」の重要性を再認識し、「分かる授業」につながる教師の指導力向上や、きめ細かな指導体制づくり、学ぶ環境の充実、また、家庭・地域との連携・協働による取組等を有機的に関連させながら取り組んでまいります。

「たくましく生きる力」の育成を柱に、すべての子どもたちの可能性を広げるために、「確かな学力」の育成の着実な推進に努めていく所存です。

令和5年3月

仙台市教育委員会

教育長 福 田 洋 之

# 目次

## 第1章 本プラン策定について

- 1. 策定の趣旨…………… 1
- 2. 本プランの位置付け…………… 1
- 3. 計画の期間…………… 2
- 4. SDGsと本プランの関連…………… 2

## 第2章 学力をめぐる現状と課題

- 1. 教育環境を取り巻く状況…………… 3
- 2. 学習指導要領が目指す方向性…………… 5
- 3. 本市児童生徒の学力・生活習慣等の現状…………… 6
- 4. 仙台市確かな学力育成プラン2018における取組と課題…………… 17
- 5. 児童生徒の気がかりな姿…………… 18
- 6. 第3期「確かな学力育成プラン」検討委員会の議論から…………… 18

## 第3章 「仙台市確かな学力育成プラン2023」における基本的方向

- 1. 本プランの目標…………… 19
- 2. 本市が目指す「確かな学力」…………… 19
- 3. 目標達成のための6つの領域…………… 21
  - A 仙台自分づくり教育の充実…………… 22
  - B 確かな指導力の向上…………… 28
  - C きめ細かな指導の充実…………… 32
  - D 学習環境等の充実…………… 36
  - E 家庭や地域との連携・協働…………… 40
  - F 学力、生活・学習状況の的確な把握…………… 43

## 第4章 本プランの推進体制

- 1. 計画の進行管理…………… 45
- 2. 多様な主体との連携・協働の推進…………… 45
- 3. 課題やニーズに応じた的確な対応…………… 45
- 4. 情報の発信…………… 45

資料1 第3期「確かな学力育成プラン」検討委員会委員名簿・協議経過…………… 46

資料2 第3期「確かな学力育成プラン」検討委員会設置要綱…………… 47

## 第1章 本プラン策定について

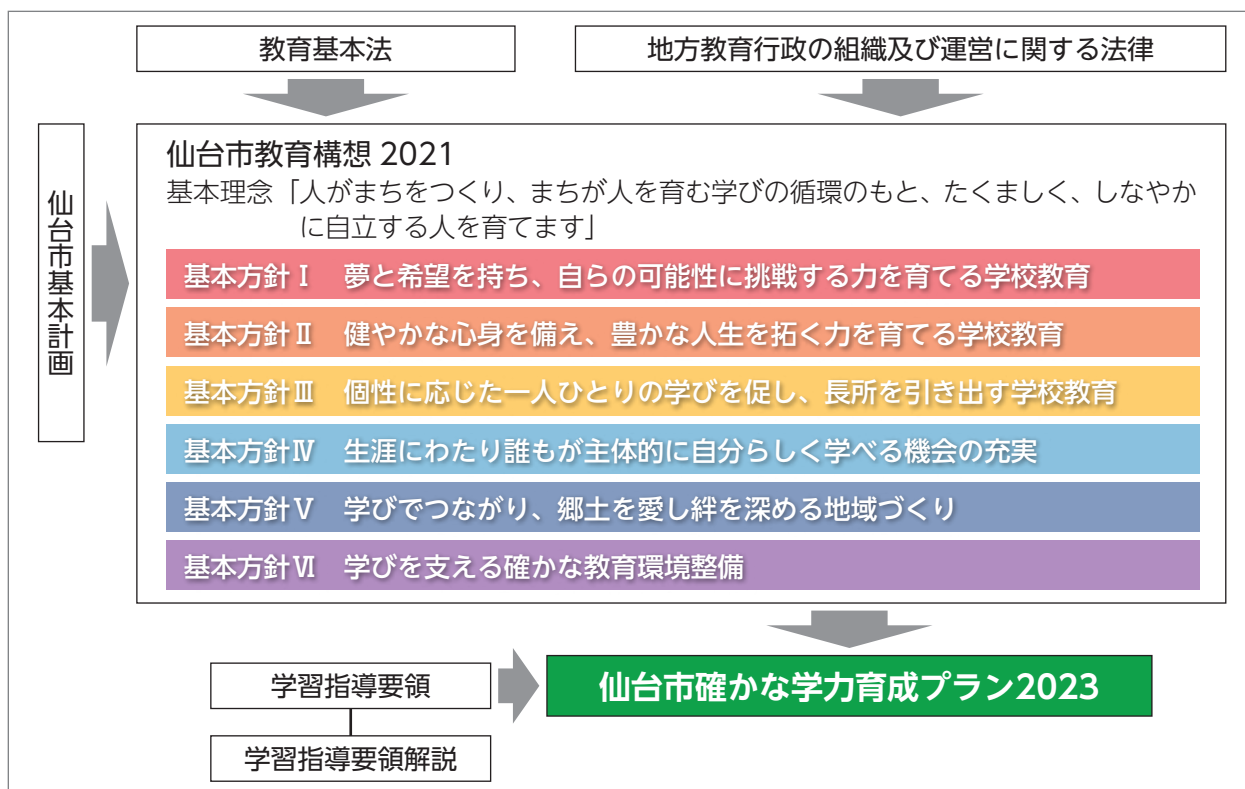
### 1. 策定の趣旨

本市では、平成21年3月に「確かな学力育成プラン」、平成30年3月に「仙台市確かな学力育成プラン2018」を策定し、「すべての子どもたちの可能性を広げるために」の理念のもと、基礎的知識の習得、応用力の育成、学習意欲の向上等、児童生徒の確かな学力の育成に向けて様々な施策を展開してきました。

現行の学習指導要領は、小学校で令和2年度、中学校で令和3年度から全面実施となりました。また、本市においては令和3年3月に「仙台市教育構想2021」\*が策定されました。この間、「仙台市確かな学力育成プラン2018」（以下「前プラン」という。）については、随時見直し・改善を加えながら、確かな学力育成のための施策を進めてきました。

前プランが令和5年3月に計画期間を終えることから、これまでの諸事業の効果を検証するとともに、本市の児童生徒を取り巻く状況の変化やプランの成果と課題、学習指導要領の視点や「仙台市教育構想2021」の基本方針などを踏まえながら、本市の子どもたちの学力向上に向けた教育施策等の方向性を示す「仙台市確かな学力育成プラン2023」（以下「本プラン」という。）を策定するものです。

### 2. 本プランの位置付け



本プランは、「教育基本法」と「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいて策定され、「仙台市基本計画」で示された教育分野の施策を協働して推進する「仙台市教育構想2021」を上位計画とし、学習指導要領の方向性に基づいた確かな学力の育成のための施策に関する基本計画として位置付けています。

### 3. 計画の期間

「仙台市教育構想2021」の計画期間が5年であることや、前プランにおいて計画期間を5年として、確かな学力の育成に取り組んできたことを踏まえ、本プランの計画期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とします。

### 4. SDGsと本プランの関連

持続可能な開発目標（SDGs）では、「誰ひとり取り残さない」を理念とし実現に向けた17の目標を掲げています。SDGsの理念や目標を実現していくためには、現代社会が直面する環境、貧困、人権、平和、開発といったグローバルな課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出していくことが求められます。

本プランにおいても、関連するSDGsの実現に向けた取組を推進していく必要があり、以下の6つの目標達成を念頭に置きながら、本市の児童生徒の確かな学力の育成を進めていきます。



〈目標4〉

質の高い教育をみんなに



〈目標5〉

ジェンダー平等を実現しよう



〈目標8〉

働きがいも経済成長も



〈目標10〉

人や国の不平等をなくそう



〈目標11〉

住み続けられるまちづくりを



〈目標17〉

パートナーシップで目標を達成しよう

\*仙台市教育構想2021：本市教育の理念と方針を定め、そのもとで効果的に教育施策を進めるため、「教育の振興に関する施策の大綱」と「第2期仙台市教育振興基本計画」を一体化し、策定したもの。令和3年4月から令和8年3月までの5年間の計画。

## 第2章 学力をめぐる現状と課題

### 1. 教育環境を取り巻く状況

先端技術が高度化してあらゆる産業や社会に取り入れられた時代になり、社会の在り方そのものが劇的に変わる状況が生じつつあります。知・徳・体を一体で育む学校教育は全体として着実に成果を上げているといわれている一方で、言語能力や情報活用能力、学習意欲等に課題があることも指摘されています。

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代になってきているからこそ、子どもたちは、社会の変化に受け身で対処するのではなく、変化を前向きに受け止めてしなやかに対応し、社会や人生、生活をより豊かなものにしていくことが必要とされています。また、自分のよさや可能性を認識するとともに、相手を尊重し、協働しながら様々な変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められています。

#### (1) 人口減少と高齢化の進展

- 人口は2008年をピークとして減少傾向にあり、2030年にかけて20代、30代の若い世代が約2割減少するほか、65歳以上が総人口の3割を超えるなど生産年齢人口の減少が加速することが予想されています。
- 小・中・高等学校の児童生徒数はいずれも減少傾向にあります。18歳人口も、2032年には100万人を割って約98万人となり、さらに2040年には約88万人にまで減少するとの推計もあります。

#### (2) 急速な技術革新

- 人工知能（AI）やビッグデータの活用、IoT（Internet of Things）をはじめとする技術革新が急速に進展し、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会の到来が予想されています。
- これらを背景として、産業構造も大きく変化し、技術革新の進展により、日本の労働人口の相当規模がAIやロボット等に代替できるようになる可能性が指摘されるとともに、これまでになかった仕事が新たに生まれることも予想されています。こうした中では、新たな技術を使いこなすだけでなく、変化にしなやかに対応するための資質・能力の育成が求められます。

#### (3) グローバル化の進展

- 世界では、人、物、情報が国境を越えて行き交うグローバル化が急速に進み、また、情報通信技術の進展により、物理的な距離や時間的な隔たりを越えて、言語や文化的な背景、価値観が異なる人々と交流する機会が大きく増加しています。
- 外国語でのコミュニケーションスキルや、多様な文化・価値観を理解し、尊重する姿勢を身に付けるとともに、グローバルな視点で主体的に諸課題に対応していく必要性が高まっています。

#### (4) 新型コロナウイルス感染症を踏まえた生活・行動様式の変化

- 新型コロナウイルス感染症の流行によりテレワーク、遠隔学習など、非対面型のコミュニケーションが進んでいます。この動きは、今後も一層進展していくと考えられますが、対面での交流機会が減少する中でも、多様な他者とともに問題の発見や解決に取り組む力がより大切になります。ポストコロナ期の教育として、対面か非対面かの二者択一ではなく、両者の良さを適切に取り入れながら、充実した体験活動ができる教育施策を展開していく必要があります。
- 学習者主体の教育活動に転換していくため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが重要となります。

#### (5) 家庭状況の変化

- 三世帯世帯の割合が低下し、一人親世帯の割合が上昇傾向にあります。世帯構造の変化や地域社会の変化に伴い、子育てについての悩みや不安を多くの家庭が抱きながらも、身近に相談できる相手がないといった家庭教育を行う上での課題が指摘されています。

#### (6) 複雑化・多様化する学校課題と教師の働き方改革

- 学校が抱える課題は、生徒指導上の課題や様々な支援を要する児童生徒の増加等により、さらに複雑化・多様化し、学校や教員の役割は一層増大しています。
- 学校に求められる役割が大きくなり、教師に負担がかかっていることも指摘されています。OECD（経済協力開発機構）\*の調査では、日本の中学校教師の授業時間は調査参加国の平均を下回っている一方で、勤務時間は上回っている結果が出ています。献身的教師像を前提とした学校の組織体制では、質の高い学校教育を持続発展させることは困難となっています。

---

\* OECD（経済協力開発機構）：ヨーロッパ諸国を中心に日・米を含め38ヶ国の先進国が加盟する国際機関。

## 2. 学習指導要領が目指す方向性

### (1) 社会に開かれた教育課程

学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有すること、学校教育のこれまでの実践や蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力をより一層かつ確実に育成することを目指しています。学校が社会と連携することを重視しながら、子どもたちに求められる資質・能力が何かを明らかにし、それを学校教育で実現していくことが求められています。

### (2) 育成を目指す資質・能力の明確化

予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかということを考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが求められています。その力を「生きる力」として捉え直し、その力をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く『知識・技能』の習得）」、「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成）」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学んだことを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養）」の三つの柱に整理しています。

### (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

子どもたちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要とされています。「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」\*で示された「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。

### (4) カリキュラム・マネジメントの推進

カリキュラム・マネジメントとは、子どもたちや学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ることです。教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが必要です。これらの取組の実現のために、カリキュラム・マネジメントの推進が求められています。

\* 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）：令和3年1月26日中央教育審議会の答申



### 3. 本市児童生徒の学力・生活習慣等の現状

本市では児童生徒の学力及び生活習慣の現状や課題を把握するため、年度ごとに推移をまとめ、総合的に分析を行っています。

#### ■ 仙台市独自調査（令和2年度標準学力検査は感染症による臨時休業の影響で中止）

##### ● 仙台市標準学力検査：小3～中3が対象

小3：国・数 小4～小6：国・社・算・理

中1～3：国・社・数・理・英

（令和4年度より中1で「英」を追加）

##### ● 仙台市生活・学習状況調査\*：小2～中3が対象

#### ■ 全国学力・学習状況調査：小6・中3が対象

（令和2年度は感染症による臨時休業の影響で中止）

##### 児童生徒に対する調査

● 教科に関する調査：国・算（数）は毎年，理科・英語は3年に1度程度実施

● 質問紙調査\*：毎年実施

##### 学校に対する調査

● 学校質問紙調査\*：毎年実施

#### （1）基礎的知識の現状（仙台市標準学力検査から）

##### 【国語】

仙台市標準学力検査の国語では、目標値と同等\*以上の児童生徒の割合は、令和元年度以降、小学校では60%～70%、中学校では70%～80%で推移しています（図1）。

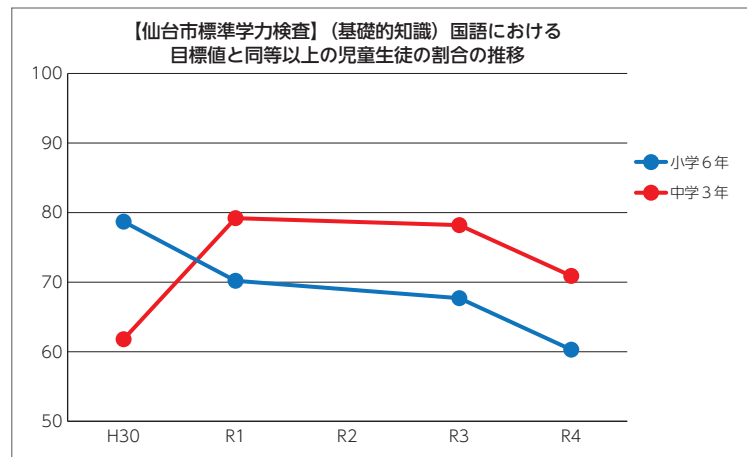


図1

\*仙台市生活・学習状況調査：本市における児童生徒の生活と学習の現状や課題を、全市的な規模で客観的に把握・分析する目的で実施。

\*質問紙調査：全国学力・学習状況調査において、児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。

\*学校質問紙調査：全国学力・学習状況調査において、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備状況等に関する質問紙調査。

\*目標値と同等：目標値と同等とは、目標値－5ポイント以上、目標値＋5ポイント未満の正答率のこと。目標値とは、仙台市標準学力検査において、標準的な時間をかけて学習指導要領に示された内容について学んだ場合、到達してほしい標準学力検査における正答率。

【算数・数学】

仙台市標準学力検査の算数・数学では、目標値と同等以上の児童生徒の割合をしてみると、やや上下動はあるものの、小中学校ともに、60%～70%で推移しています（図2）。一方で、目標値と同等未満の児童生徒は30%～40%いるということになり、その指導が課題であるといえます。

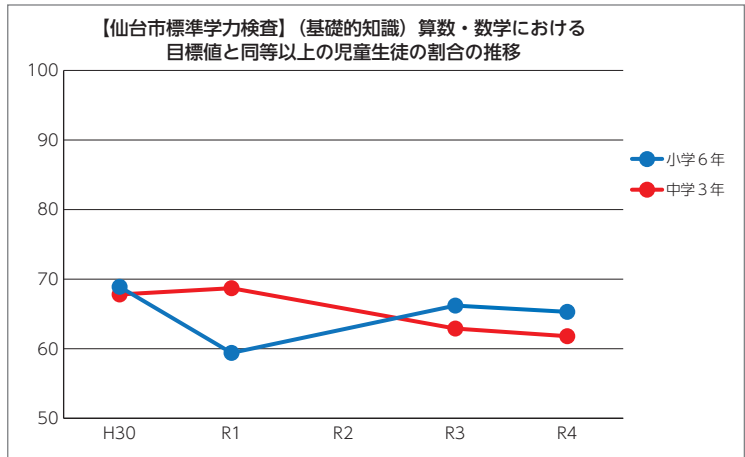


図2

算数・数学における同一集団の経年変化を見ると、全体的には学年進行に伴って、目標値と同等以上の割合が低下する傾向にあります。どの集団も5年生では大きく低下し、それ以降の上昇がほとんど見られないことが課題となっていました。少しずつ割合が上昇する学年が見られるようになってきました（図3）。

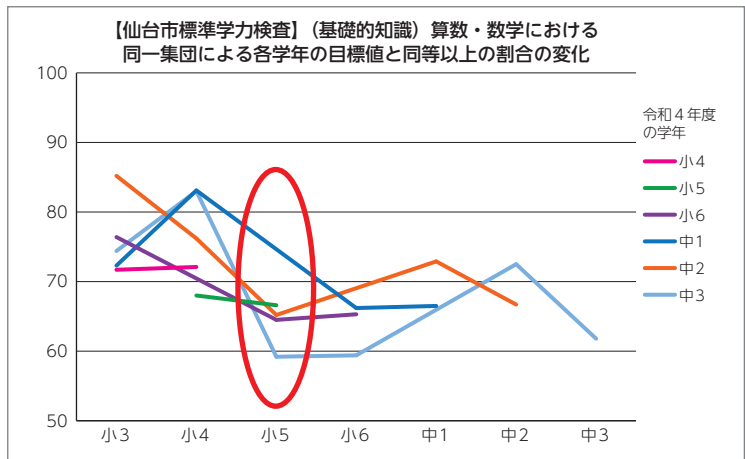


図3

〈データから見える児童生徒の実態〉

小中学生ともに、基礎的知識が概ね定着している様子が見られます。一方で、目標値に達していない児童生徒への支援が求められます。

(2) 応用力の現状（仙台市標準学力検査から）

国語における応用力の目標値と同等以上の児童生徒の割合について、同一集団の経年変化から、その割合が増加していることが分かります（図4）。

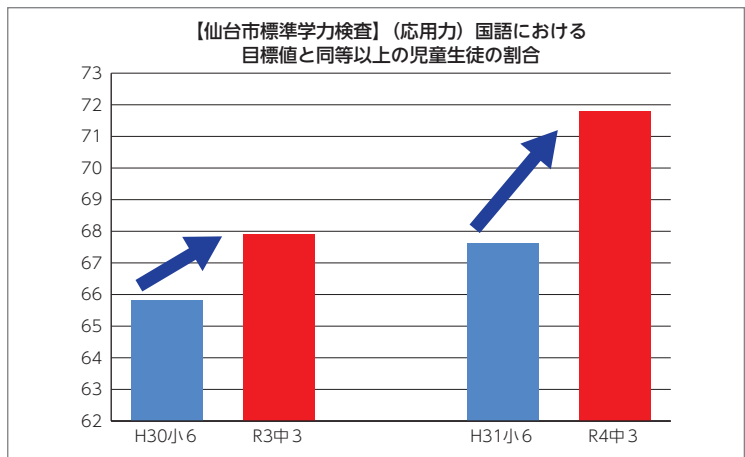


図4

算数・数学における応用力の目標値と同等以上の児童生徒の割合について、同一集団の経年変化から、その割合が増加していることが分かります。しかし、5割を下回っている状況となっています（図5）。

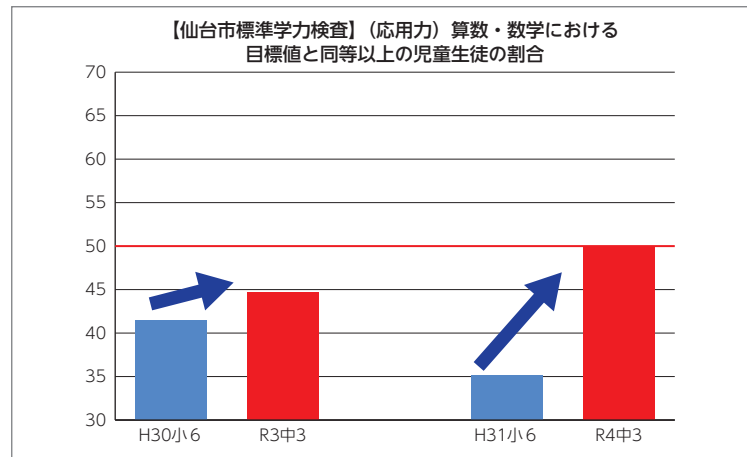


図5

### 〈データから見える児童生徒の実態〉

国語、算数・数学の目標値と同等以上の同一集団の割合の推移は増加していることが分かります。しかし、算数・数学においては、5割以下となっており、目標値に達していない児童生徒への支援が求められます。

### （3）全国学力・学習状況調査の結果から

右のグラフは、全国学力・学習状況調査の正答数について、上位から25%ごとにA～D層とした学力層\*別に、全国の割合を1とした時の仙台市の割合の推移を表しています。

全体として、小学校国語では、若干A層が少ない状況ですが、概ね全国と同じような分布となっています（図6）。

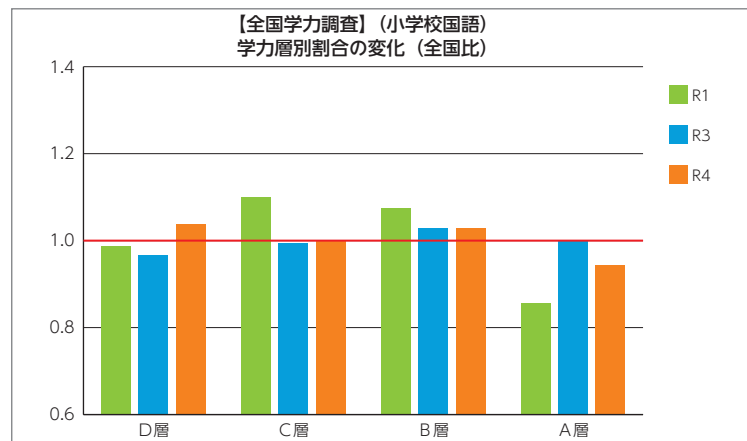


図6

小学校算数も4つの学力層全てで、全国の学力層と同じような分布となっています（図7）。

年度ごとに見てみると、小学校国語、小学校算数ともにA層が減少し、D層が増加しており、課題となっています。

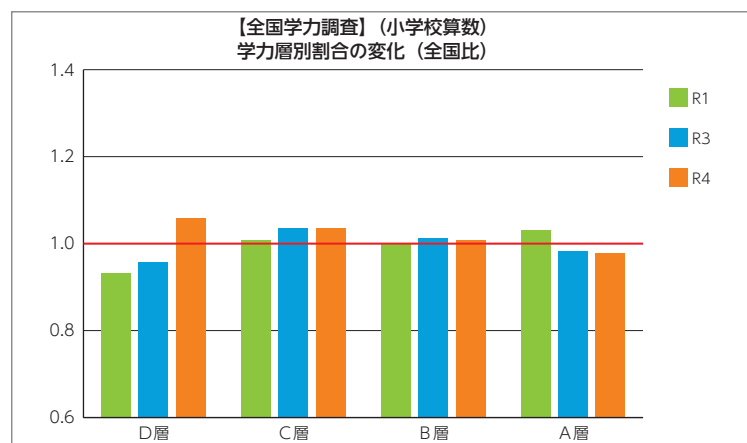


図7

\*学力層：本調査の集計対象となった児童生徒全員の正答数分布の状況から四分位により分類し、正答数の多い順に、学力層A、学力層B、学力層C、学力層Dとしたもの。全国の学力層の割合をそれぞれ1.0とした時の、本市の学力層の割合の比を比較する。（層を25%ごとに分けているが、正解した問題数で分けている関係で増減があるため、割合でなく割合の比を指標とする。）

中学校国語、中学校数学の学力層は、全体としてはA層、B層の割合が多く、C層、D層の割合が少ない状況です。年度ごとに見てみると、多少ばらつきがあるものの、C層、D層が少しずつ増加しており、課題となっています(図8、図9)。

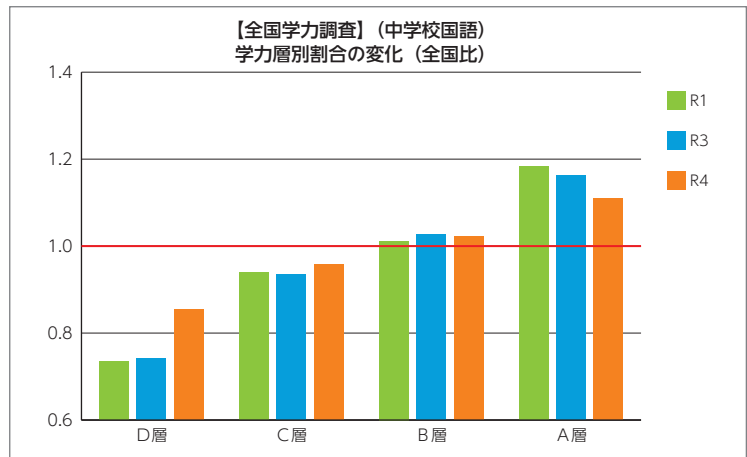


図8

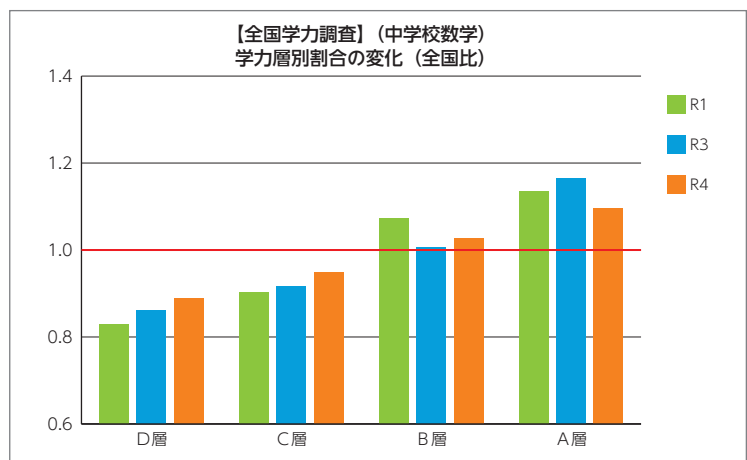


図9

#### 〈データから見える児童生徒の実態〉

学力層の全体的な傾向としては、小学校は全国とほぼ同じような傾向、中学校はA層、B層が多く、C層、D層が少ない状況です。一方で、年度ごとの推移では、D層が若干増えている状況が課題となっています。C層、D層の割合を減少させていくことが求められます。

## (4) 生活習慣・学習習慣、学習意欲等の現状

## ①生活習慣

1日当たり2時間以上テレビやDVDを視聴している児童生徒は学年が進行するほど少なくなり、その割合も年々減少しています(図10)。

## 【仙台市生活・学習状況調査】

ふだん(月曜から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVDを視聴していますか(2時間以上)

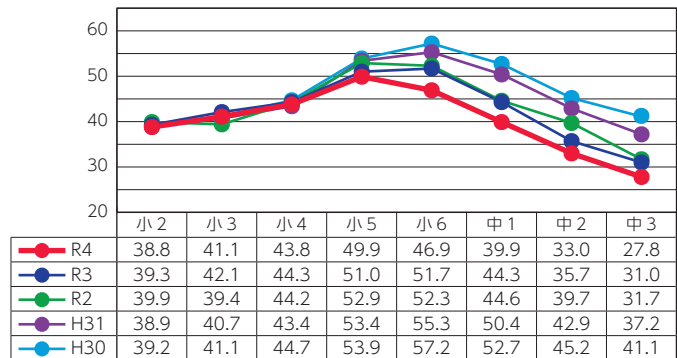


図10

一方で、インターネット動画を視聴する児童生徒の割合は学年が進行するほど増えています(図11)。

児童生徒の習慣が、テレビ・DVD視聴からインターネット動画視聴に変化してきている様子が分かります。

## 【仙台市生活・学習状況調査】

ふだん(月曜から金曜日)、勉強以外で、1日当たりどれくらいの時間、インターネット動画を見ていますか

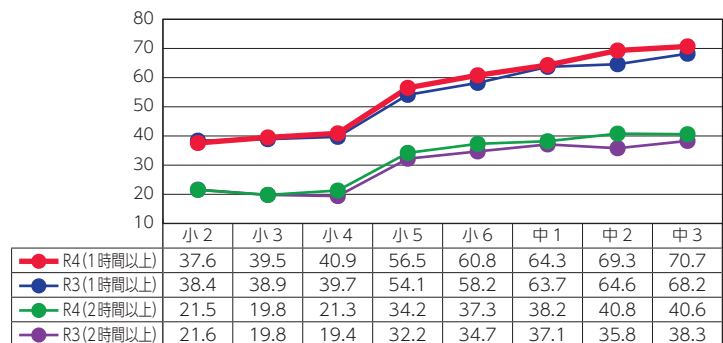


図11

「携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答している児童生徒は高学年になるほど増え、その割合も年々増加傾向にあります(図12)。

## 【仙台市生活・学習状況調査】

携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っている

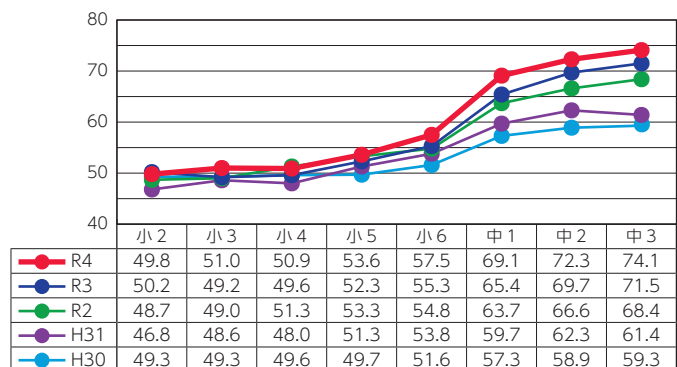


図12

## 〈データから見える児童生徒の実態〉

インターネット動画視聴が年々、増加傾向にあります。メディアの適切な使用について、継続した家庭への啓発が必要です。

②自己肯定感・将来への期待感

「自分には、良いところがあると思う」に肯定的に回答している割合は、70%～80%で推移し、中学校3年生では年々増加する傾向が見られます（図13）。

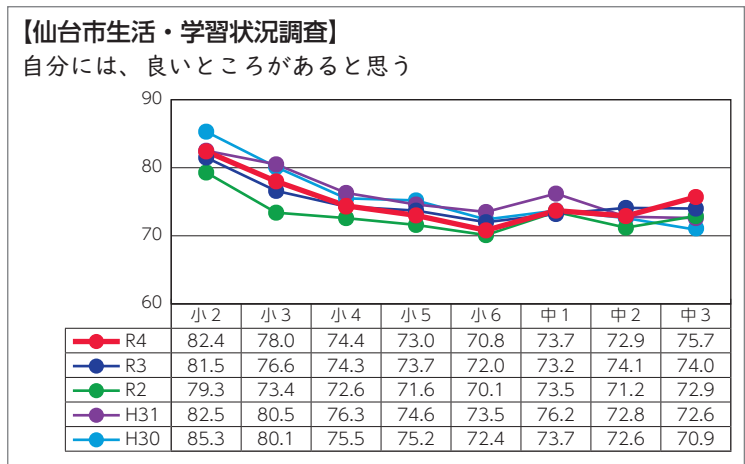


図13

また、全国学力・学習状況調査の結果では、本市の児童生徒は、中学校3年生で全国平均を上回っています（図15上）。

一方で、「将来の夢や目標を持っている」に肯定的に回答している割合は、学年が進行するほど減少し、特に中学生では年々減少している傾向が見られます（図14）。

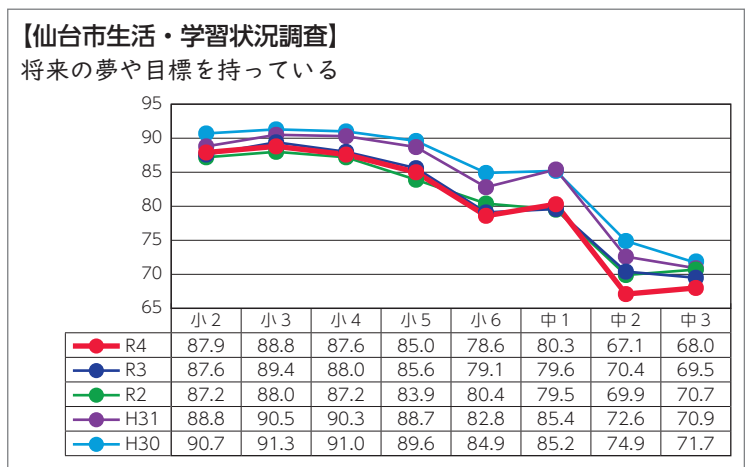


図14

全国学力・学習状況調査の結果からも低い傾向が見られますが、本市の中学校3年生は、全国平均を上回っています（図15下）。

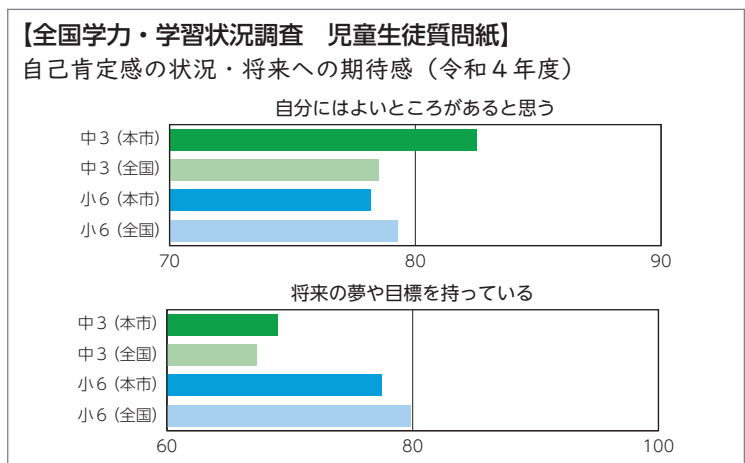


図15

〈データから見える児童生徒の実態〉

「自分には、良いところがあると思う」と肯定的に回答している児童生徒の割合は、70%～80%で推移し、中学校3年生では年々増加する傾向が見られます。「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答している割合は学年が進行するほど減少傾向にあります。児童生徒の内面を満たしていくため、「仙台自分づくり教育\*」のさらなる充実が求められます。

## ③学習習慣

6割前後の児童生徒が、自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる様子が見られます(図16)。

平日1時間以上家庭学習に取り組んでいると回答している割合は、学年が進行するほど増加傾向にあります。また、令和4年度は、どの学年も平成30年度以降最も低い割合となっています(図17)。

全国学力・学習状況調査では、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」に肯定的に回答している割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています(図18)。

## 【仙台市生活・学習状況調査】

自分で計画を立てて、家で勉強をしている

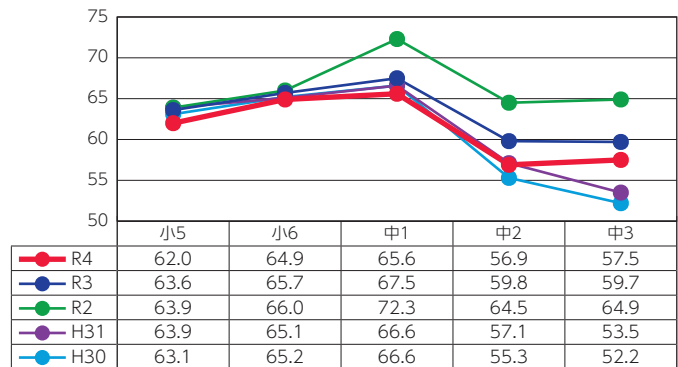


図16

## 【仙台市生活・学習状況調査】

学校の授業時間以外に、ふだん(月曜から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(家庭教師・学習塾等を除く)(1時間以上)

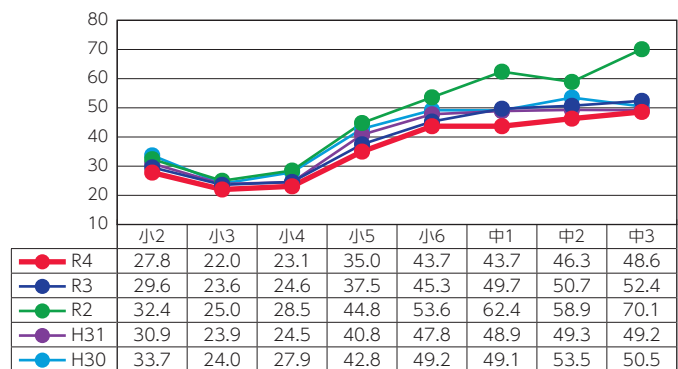


図17

## 【全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

家庭学習の取組(令和4年度)

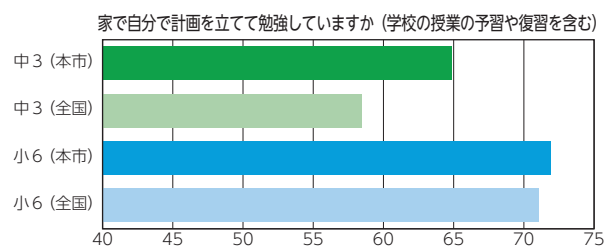


図18

## 〈データから見える児童生徒の実態〉

本市の児童生徒は、家庭学習の習慣が概ね身に付いていると考えられます。これからも、学習することの大切さを実感できる働き掛けが求められます。

\*仙台自分づくり教育：平成18年度に仙台版キャリア教育として「仙台自分づくり教育」を策定し、平成20年度より教育施策の重点事項に位置付けている。児童生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、人や社会との関わりを大切にしながら、社会的・職業的自立に必要な態度や能力(たくましく生きる力)を育むことをねらいとしている。

④学習意欲

「勉強をとおして、新しいことが分かるようになるのは、楽しい」、「自分の夢をかなえるために、たくさん勉強する」に肯定的に回答している割合は、どちらもほとんどの学年で8割以上となっています。自発的に学習に取り組もうとしている児童生徒が多いことが分かります(図19、図20)。

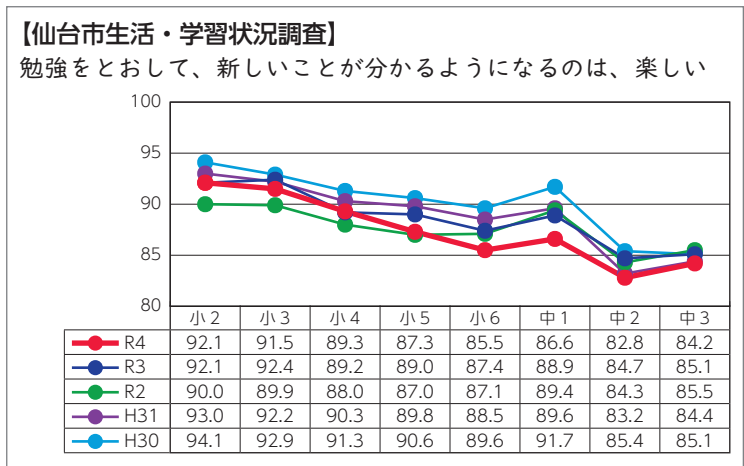


図19

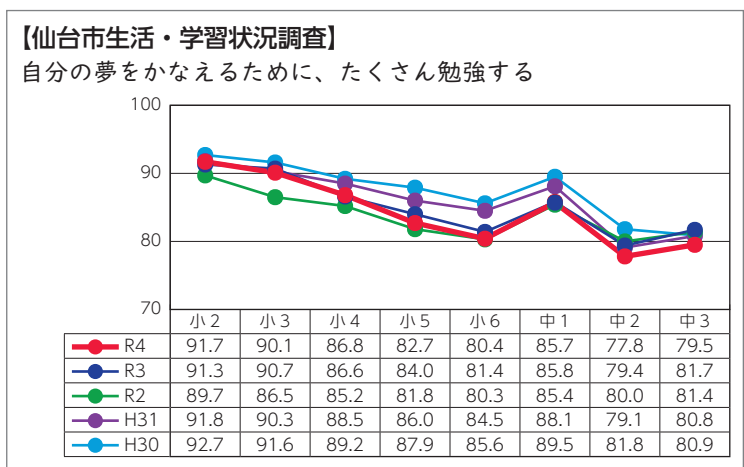


図20

〈データから見える児童生徒の実態〉

自発的に学習に取り組もうとしている児童生徒が多いことが分かります。今後も、学ぶ意欲を引き出す働き掛けを継続していくことが求められます。



## ⑤家庭との関わり

「家の人は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」に肯定的に回答している割合は、全学年で9割前後であり、令和4年度は平成30年度と比べ、全学年で割合が増加しています（図21）。

## 【仙台市生活・学習状況調査】

家の人は、あなたの良いところを認めてくれていると思う

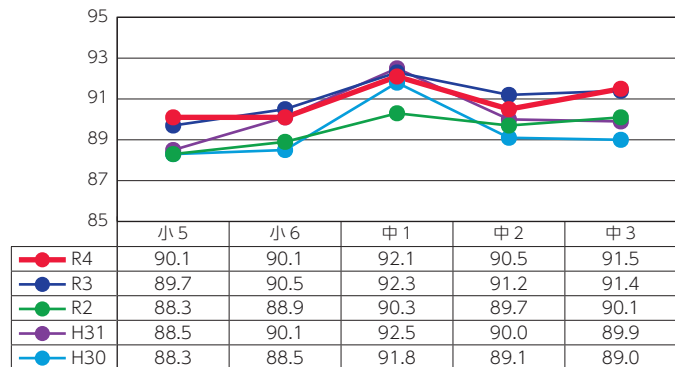


図21

また、「自分の将来について、家の人と話し合っている」に肯定的に回答している割合は、年度による上下動はあるものの、中学校3年生は7割前後、その他の学年は6割前後で推移しています（図22）。

## 【仙台市生活・学習状況調査】

自分の将来について、家の人と話し合っている

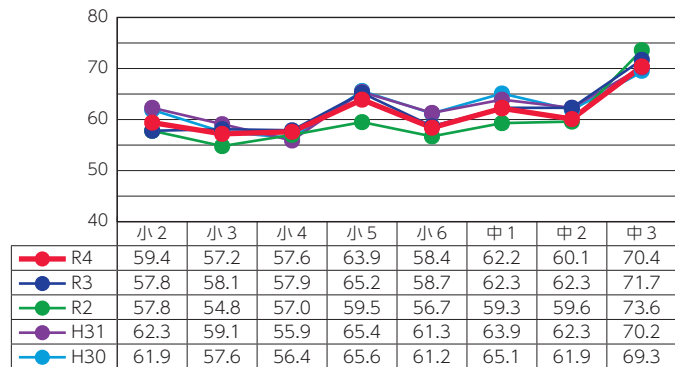


図22

## 〈データから見える児童生徒の実態〉

子どもたちが家庭の中で「自分の良さ」を認められているという実感は、心の成長に大きな影響を与えるものと思われます。また、家庭でも、将来のことについて話し合う時間を持っていることは、良い傾向であるといえます。今後も、家庭との連携を大切にすることが求められます。

### ⑥地域との関わり

「地域の行事に、参加したいと思う」に肯定的に回答している割合は、学年が進行するにつれ減少し、中学校3年生では5割前後となっています(図23)。

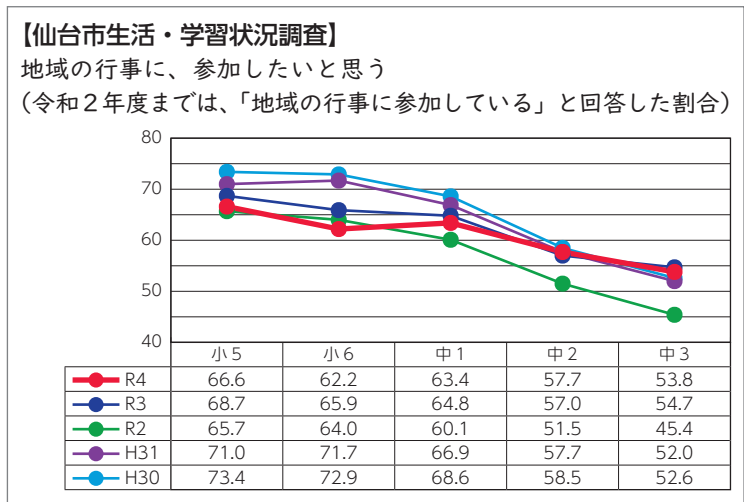


図23

全国学力・学習状況調査では、「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答している割合は中学校3年生で大きく減少し4割弱となっています。一方で、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」に肯定的に回答している割合は小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています(図24)。

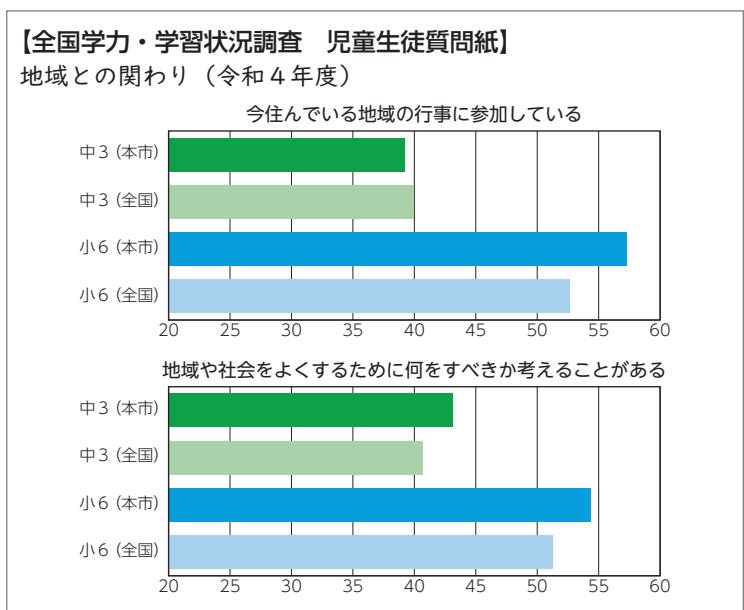


図24

#### 〈データから見える児童生徒の実態〉

「地域の行事に参加している」「参加したいと思う」と回答している割合は、学年が上がるにつれ減少傾向が見られます。一方で「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答している児童生徒の割合は全国平均より多くなっています。地域の一員として、地域で活躍する児童生徒を増やしていくために、学校支援地域本部\*やコミュニティ・スクール\*(学校運営協議会制度)等を活用し、地域との連携を大切にしていくことが求められます。

\*学校支援地域本部：学習支援や安全見守り等のボランティアなど、地域住民・地元商店等の協力を得ながら、学校の求めに応じた支援を行い、学校における子どもたちの豊かな学びの環境を創出する事業。

\*コミュニティ・スクール：学校運営協議会を設置している学校を指し、学校と保護者・地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となり、地域とともに特色ある学校づくりを進める仕組み。学校運営協議会とは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5に規定する学校運営や必要な支援に関する協議をする合議体。

## ⑦ GIGA スクール構想に関して

授業でコンピュータなどのICT機器を週1回以上使用したと回答した割合は、年々増加し、令和4年度は小学校6年生、中学校3年生ともに、80%を超えています（図25）。

## 【全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

授業でコンピュータなどのICT機器を週1回以上使用した

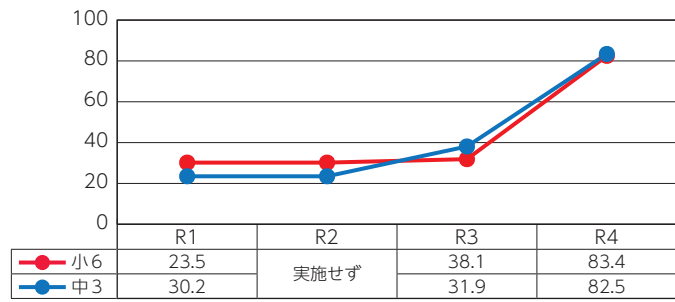


図25

「ふだん（月曜から金曜日）、家庭学習の時に、勉強する目的で、インターネットに接続して、どれくらいの時間、スマホ、タブレット、パソコンなどを使っているか」の回答では、若干の上下動はあるものの、令和3年度と4年度の結果で大きな変化は見られませんでした（図26）。

## 【仙台市生活・学習状況調査】

ふだん（月曜から金曜日）、家庭学習の時に、勉強する目的で、1日当たりどれくらいの時間、インターネットに接続して、スマホ、タブレット、パソコンなどを使っていますか

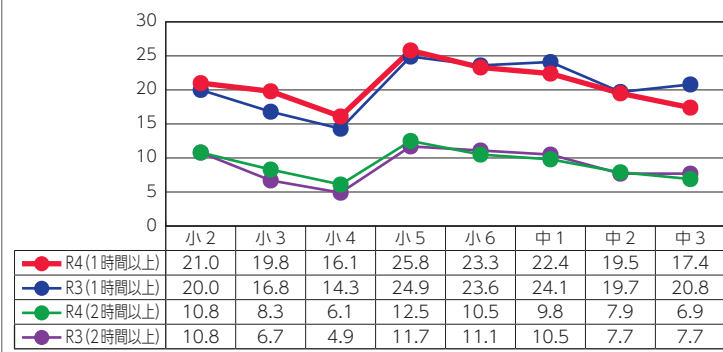


図26

## 〈データから見える児童生徒の実態〉

授業中におけるICTの活用が増えています。一方で、家庭学習での使用はまだ少ない傾向が見られます。今後、授業での活用機会をさらに増やし、家庭でも効果的に使っていくことで、探究的な学びを推進し、学びに向かう力を育てていくことが求められます。

## 4. 仙台市確かな学力育成プラン2018における取組と課題

前プランでは、育成を目指す確かな学力の構成要素を「基礎的知識」「応用力」「学習意欲」として整理し、それらの確実な習得・向上を目指すことを目標としていました。

### 【基礎的知識・応用力に関して】

仙台市標準学力検査の結果から、基礎的知識では、p.6、p.7で示したように、小・中学生ともに概ね良好な結果が見られます。応用力では、p.7、p.8で示したように、同一集団の目標値と同等以上の児童生徒の割合の経年変化は増加傾向にあります。

全国学力・学習状況調査の学力層別の割合を見てみると、中学校では過去3回の調査とも、同じ様な傾向が見られ、A層、B層が多く、C層、D層が少ない状況となっています。

これらの結果から、本市の児童生徒は、基礎的知識・応用力ともに、概ね身に付いている状況であると考えられます。

### 【学習意欲に関して】

p.12、p.13で示したように、家庭学習の習慣が概ね身に付いており、自発的に学習に取り組もうとしている児童生徒が多い様子が見られます。p.11で示している自己肯定感に関しては、「自分には、良いところがあると思う」という質問に肯定的に回答している割合は、仙台市生活・学習状況調査の中学校3年生で年々増加し、全国学力・学習状況調査の結果でも全国平均を上回る状況となっています。

### 【課題】

基礎的知識、応用力が概ね定着していると思われる一方で、仙台市標準学力検査における目標値に達していない児童生徒は常に30～40%ほどいること、全国学力・学習状況調査におけるC層、D層も毎年一定の割合となり、実施年度によっては前年度より増加している時も見られます。そのため、それらの割合を減少させていくことが求められます。また、p.11で示したように「将来の夢や目標」は学年が進行するほど低い割合になる傾向が見られます。p.13の学習意欲に関しては、環境が変わる中学校1年生で若干、肯定的回答の割合が増加し、その後減少する傾向が見られます。中学校2年生、3年生でも学習意欲を継続させ、学ぶ意義を実感するような学習活動や環境づくりが求められます。

また、「学習意欲」の科学研究に関するプロジェクト\*の分析から、学力との相関関係が見られている「読書時間」の減少や「スマートフォンの利用時間」の増加など、児童生徒の生活習慣に関する課題も見られています。

\*「学習意欲」の科学研究に関するプロジェクト：見えにくく、学力の根幹を成す「学習意欲」について、脳科学、教育現場等の知見を活用し、科学的に研究するプロジェクト。

## 5. 児童生徒の気がかりな姿

全国学力・学習状況調査と仙台市生活・学習状況調査の結果から、児童生徒の意識について気がかりな点が見えてきました。

1点目は学習への意識です。全国学力・学習状況調査の結果、国語、算数・数学の勉強が「大切」、「将来社会に出たときに役立つ」の質問に対して9割前後が肯定的な回答をしています。一方で、国語、算数・数学の勉強が「好き」という質問に肯定的な回答は、6割前後に落ち込みます。

2点目は学習への意識と将来への見通しについてです。仙台市生活・学習状況調査では、「自分の夢をかなえるためにたくさん勉強する」という質問に、全学年8割以上、特に低学年では9割以上が肯定的な回答をしています。それに対して、「将来の夢や目標を持っている」という質問への肯定的な回答は、低学年ではほぼ90%だったものが、学年が進行するほど低下し、令和4年度は中学2年生、3年生で60%台となっています。「自分の将来を考えると、楽しい気持ちになる」という質問に対する肯定的な回答は学年が上がるにつれて低下し、中学校3年生は65%に届きません。直近の2年は新型コロナウイルス感染症による生活の不安からか、以前を下回る結果となっています。

これらの傾向は、ここ数年共通しており、児童生徒は、学習の大切さや必要性を感じながらも、学習へ向かう気持ちが湧かなかったり、将来への見通しが立たなかつたり相反する傾向が生じていると捉えています。

## 6. 第3期「確かな学力育成プラン」検討委員会の議論から

検討委員会では、児童生徒の「生きる力」を育成するためには、自己受容や自己肯定感とともに、チャレンジ精神、やり抜く力、リカバリー力などの「非認知的な能力<sup>\*</sup>」が必要であるという意見が多くありました。基礎的な学力を身に付けるとともに、生活の中で児童生徒が日々、様々なチャレンジを行う機会が重要であること。また、全てがうまくいくわけではなく、失敗や困難に対して粘り強く向き合い、乗り越えた経験が次への意欲や自信につながること。自己受容や自己肯定感を育む上で、様々なロールモデルとの出会いによる多様な生き方や価値感に触れる機会の重要性など、検討委員は共通の認識を持っていました。

さらに、児童生徒が将来自らの人生に幸せを感じて生きること、また、他者と協働し、支え合いながら豊かな社会の担い手に成長していくためには、社会生活や多様な生き方をリアルに学ぶ機会が必要であることも意見交換されました。

児童生徒の「認知的な能力」だけでなく、いわゆる「非認知的な能力」も育てることや、「社会の仕組み」「生き方」「人との関わり」について体験的に学習する取組は、これまで本市で充実を図ってきた「仙台自分づくり教育」で目指す「たくましく生きる力」を育む取組に当てはまるものです。

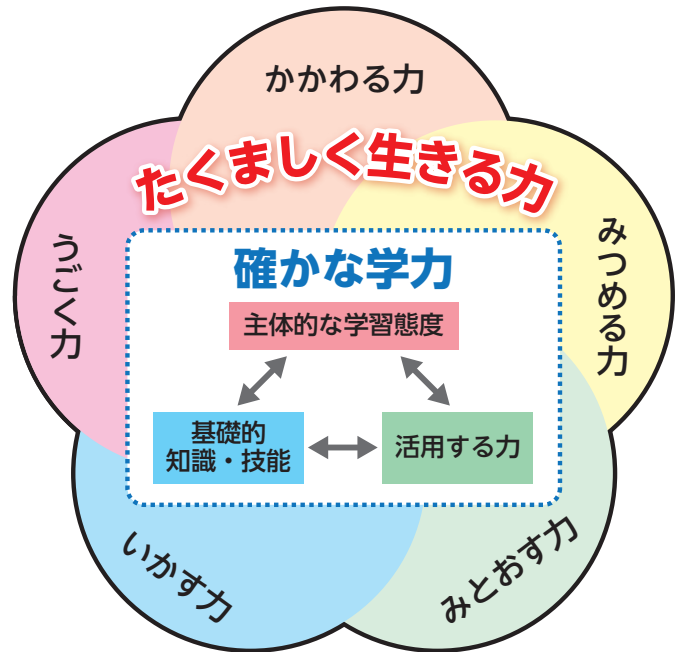
<sup>\*</sup>非認知的な能力：目標や意欲、興味・関心を持ち、粘り強く、仲間と協調して取り組む姿勢等

## 第3章 「仙台市確かな学力育成プラン2023」における基本的方向

### 1. 本プランの目標

**たくましく生きる力**を育みながら、**確かな学力**の要素である**基礎的知識・技能**の習得、**活用する力**の育成、**主体的な学習態度**の形成を目指します。

「たくましく生きる力」は、自立した「学び」への動機となって、「基礎的知識・技能」「活用する力」「主体的な学習態度」に作用し、「確かな学力」の充実につながります。



### 2. 本市が目指す「確かな学力」

#### (1) 「たくましく生きる力」

「たくましく生きる力」とは、社会的な自立を内面から支える力であり、「かかわる力・うごく力・いかす力・みとおす力・みつめる力」の5つの力の総称です。5つの力を身に付けていく過程で、新しいものを追求したり、分からないものを解決したりしながら、よりよく生きていくために必要な「知恵」や、獲得した知恵を実践に移そうとする「態度」が身に付きます。

本市では、平成18年度から仙台自分づくり教育の取組を始め、「児童生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、人や社会との関わりを大切にしながら、将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力を育む」ことをねらいとして、たくましく生きる力の育成を目指してきました。その中で、職業に関連する学習や、将来設計に関連する学習の機会の拡充、また、非認知的な能力も育む「たくましく生きる力育成プログラム」の授業プランを作成し、検証・改善を図ってきました。この方向性は、学習指導要領の趣旨と合致するものです。

**育む態度や能力**

### たくましく生きる力=5つの力

かかわる力	うごく力	いかす力	みとおす力	みつめる力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい人間関係をつくる力</li> <li>・すすんで考えや気持ちを伝え合う力</li> <li>・人や地域を大切にし、協力する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に行動する力</li> <li>・最後までやり通す力</li> <li>・行動を振り返り、改善につなげる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を集め、調べる力</li> <li>・情報、助言を正しく理解する力</li> <li>・情報、助言を生かす力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来をみとおす力</li> <li>・自分の目標を設定する力</li> <li>・目標達成のために計画を立てる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のよさを理解できる力</li> <li>・自分の役割が分かる力</li> <li>・ストレスをコントロールする力</li> </ul>

## (2) 本市における「確かな学力」の要素

本市における「確かな学力」の要素は、「基礎的知識・技能」「活用する力」「主体的な学習態度」と考えます。学習指導要領で育成を目指す3つの資質・能力との関連は、「生きて働く知識・技能」を「基礎的知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」を「活用する力」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」を「主体的な学習態度」として位置付けます。

「確かな学力」の要素の関係は、「基礎的知識・技能」と「活用する力」がバランスよく補完し合いながら向上していく双方向性を持ったものと捉えます。「主体的な学習態度」は、身に付けた知識・技能を活用することで高まり、また、学習意欲の高まりによって、新たな課題解決への意欲につながります。そして、見通しを持って学習し、その過程や達成状況を考慮して、学習の進め方を自ら調整したり、学んだことをその後の生活や、社会の中で生かそうとする意欲につながったりします。

確かな学力の要素	学習指導要領の示す資質・能力
基礎的知識・技能	生きて働く知識・技能
活用する力	未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
主体的な学習態度	学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

## (3) 「確かな学力」の育成

本市における「たくましく生きる力」を育成する取組や、その中で高まる非認知的能力は、自立した「学び」への動機となって、「基礎的知識・技能」「活用する力」「主体的な学習態度」に作用し、「確かな学力」の充実につながります。一方で、教科等の学習において「たくましく生きる力」の5つの力を活用することで、それらの力がさらに高まる機会となります。つまり、「たくましく生きる力」を育成することが「確かな学力」の育成につながり、また、「確かな学力」を育成することが、「たくましく生きる力」の育成につながっていく、相互に作用する関係といえます。

このことから、本プランでは、すべての子どもたちの可能性を広げるために「確かな学力」の要素である、「基礎的知識・技能」「活用する力」「主体的な学習態度」に加え、「たくましく生きる力」を育成する取組も重視していきます。

## (4) 「確かな学力」の育成におけるICTの積極的な活用

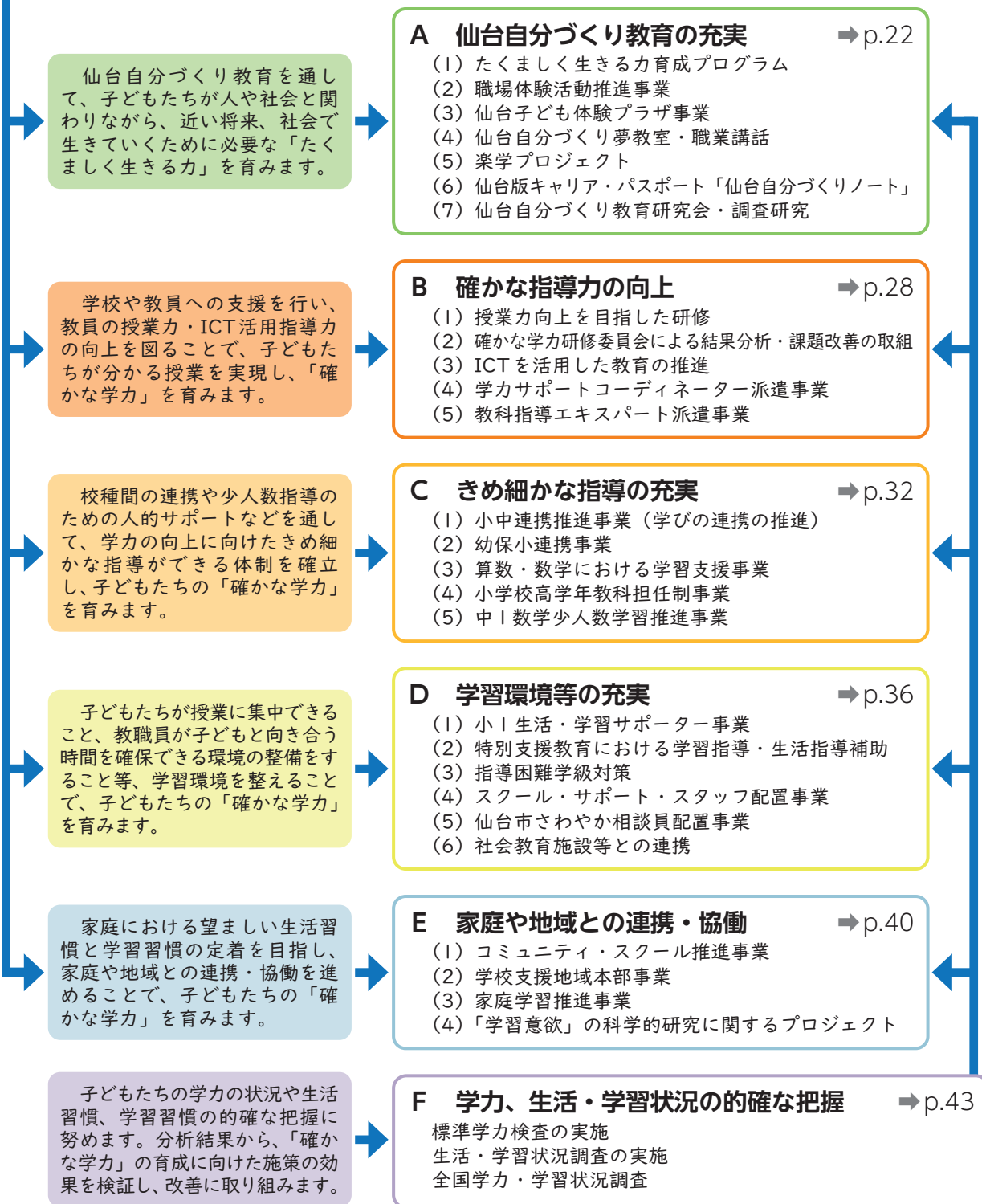
「確かな学力」の育成に向けて、児童生徒が基礎的な知識・技能を習得し、学習内容を確実に身に付けることができるよう、それぞれの理解や学び方に対応する「個に応じた指導」は不可欠です。また、単に問題演習を行うだけでなく、児童生徒が、学び合いにより自らの理解を確認し、定着を図っていくことも大切です。このことは、児童生徒からの視点で捉えると「個別最適な学び」と「協働的な学び」の保障であり、GIGAスクール構想により整備されたICT環境を生かすことにより、効率的に進めることが可能となります。多様な学びの実現と、児童生徒の情報活用能力\*を高め、自ら学習を調整しながら粘り強く取り組む態度を育むために、ICTの積極的な活用を進め、「確かな学力」を育成していきます。

\*情報活用能力：世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりするために必要な資質・能力。

### 3. 目標達成のための6つの領域

様々な課題に対応するための具体的な取組を領域ごとにまとめたものが、以下のA～Fです。「仙台市教育構想2021」の基本方針との関連性を確認しながら、「確かな学力」育成のための施策を進めていきます。

**たくましく生きる力**を育みながら、**確かな学力**の要素である**基礎的知識・技能**の習得、**活用する力**の育成、**主体的な学習態度**の形成を目指します。





## A

## 仙台自分づくり教育の充実

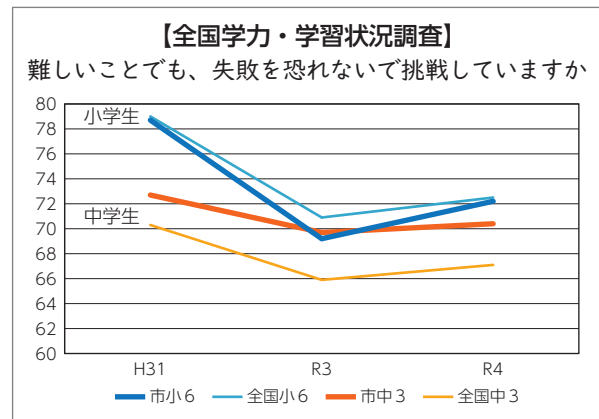
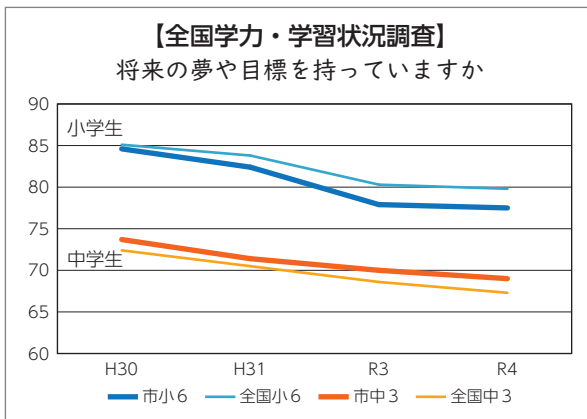


## 1 施策について

- 「仙台自分づくり教育の充実」は、「仙台市教育構想2021」の基本方針Ⅰ「夢と希望を持ち、自らの可能性に挑戦する力を育てる学校教育」に関連しています。
- 仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」を通して、児童生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、人や社会との関わりを大切にしながら、将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力（たくましく生きる力）を育むことをねらいとしています。

## 2 これまでの取組

- 社会体験の不足や人間関係の希薄化などにより、子どもたちは生きる上で必要となる知恵や態度が十分に身に付いていないという実態があります。本市では、このような学ぶ人間としての素地となる力を育むため、学識者・企業関係者から構成する「たくましく生きる力育成プログラム検討委員会」を発足させ、「たく生き」授業プランを開発しました。たくましく生きる力（かかわる力・うごく力・いかす力・みとおす力・みつめる力）を、学びの基盤となる力として育んできました。
- 全国学力・学習状況調査における自分づくり教育に関わる質問項目を見ると、「将来の夢や目標を持っていますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」に肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校6年生より中学校3年生が大きく下回る傾向があります。一方で、全国平均との比較では、小学校6年生は下回っているものの、中学校3年生で上回る傾向があります。



## 3 今後の方向性

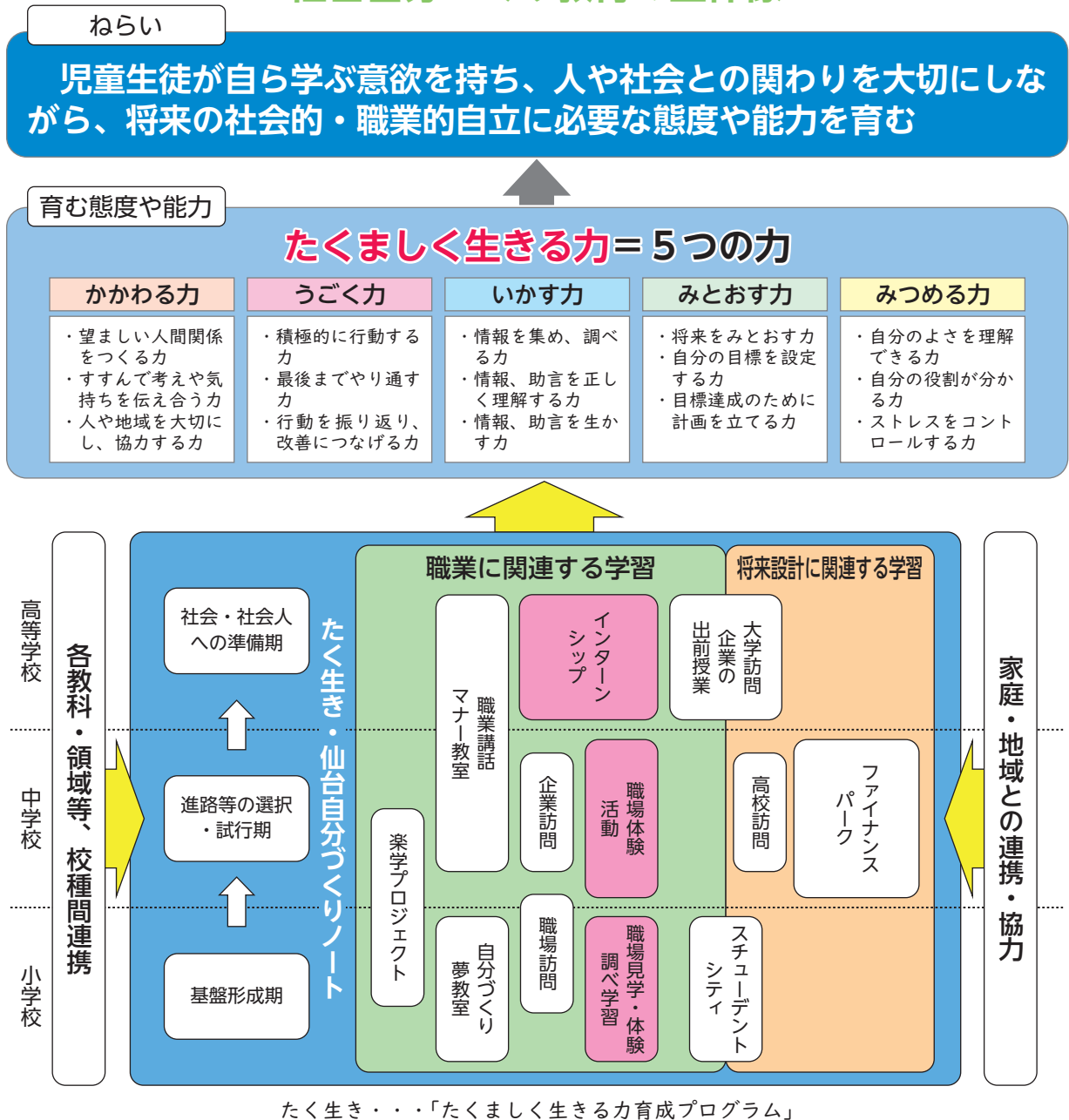
- すべての学校教育活動の中で、「かかわる力・うごく力・いかす力・みとおす力・みつめる力」を育成する視点で「学習活動」や「指導」を工夫し、「たくましく生きる力」の育成を図ります。
- 成功体験のみならず、失敗体験も学びの機会として、チャレンジ精神や判断力、実行力等の起業家精神を高める取組を行っていきます。
- 小学生段階では、様々なものに関心を持つことや体験してみること、夢を持ち、それに向かって精一杯取り組むことの大切さや、将来の夢は成長や学びを契機に変わっていいこと等も伝えます。

- 中学生段階では、現実が見え、夢をかなえることの難しさを実感する時期です。社会で働く企業人や地域の方々など、身近な大人から、「夢を持つことの大切さ」だけでなく、「夢をかなえられなくても、今の仕事や生き方に意義を見だし、幸せに生活している人はたくさんいること」等、仕事や価値観の多様性について学べるようにしていきます。
- 「仙台自分づくりノート」で、児童生徒が自らの学習や生活を見通したり、振り返ったりしながら、たくましく生きる力を身に付けられるように、小学校から高等学校までの活動の記録を蓄積します。
- 仙台自分づくり教育は、様々な人と関わり、多様な評価や考えに触れる機会が大切です。ICTを積極的に活用することで、より多くの人とつながり、コミュニケーションの機会が持てる場面を検討していきます。

#### 4 点検・評価の視点

- 仙台市生活・学習状況調査、全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙における「自己肯定感」「将来への展望」「挑戦心」等の質問項目について経年変化を捉えるなど、多面的・多角的に分析を行い、事業の状況確認・改善に努めます。

### 仙台自分づくり教育の全体像



## A (1) たくましく生きる力育成プログラム

### 1 ねらい

有識者・企業関係者等から構成する「たくましく生きる力育成プログラム検討委員会」での協議を通して作成された「たくましく生きる力育成プログラム」(たく生き)の積極的な活用により、児童生徒が社会を生き抜くために必要な力である「たくましく生きる力」を育成します。

### 2 これまで

- 「たく生き」の授業実践を公開し、「たく生き授業プラン集」の活用推進を進めてきました。
- 「リーフレット」を作成・配付し、「たく生き」の効果について教員に周知してきました。
- 「仙台市教育構想2021」の趣旨に沿った「2022たく生き授業プラン集」を編集・改訂しました。
- 児童生徒の実態や社会の変化に応じた要素を取り入れた授業プランを作成しています。
- 「たく生き」の実践率は年々高まってきてはいるものの、「たくましく生きる力」の育成を意識した実践を拡大していくことが必要となっています。

### 3 これから

#### ● 「たく生き」の浸透

日々の学校教育活動の中で、「かかわる力・うごく力・いかす力・みとおす力・みつめる力」を育成する視点で「学習活動」や「指導」を工夫し、「たくましく生きる力」の育成を図ります。

#### ● 各校で「たく生き」の実践をしやすくするために

短時間で実践するプラン(ショートプラン)の開発や、児童生徒の実態に応じて、どの時間に、どのような方法で、どの授業プランを実践することが効果的なのか、実践事例を共有できるシステムを構築します。さらに教員の活用機会を増やすことで児童生徒のたくましく生きる力を育てることにつなげていきます。

#### ● 生活・学習状況調査の活用

仙台市生活・学習状況調査の結果から課題を焦点化し、児童生徒の生活習慣や学習習慣の改善につながる授業プランを、実践することにより「たくましく生きる力」を育てます。

## A (2) 職場体験活動推進事業

### 1 ねらい

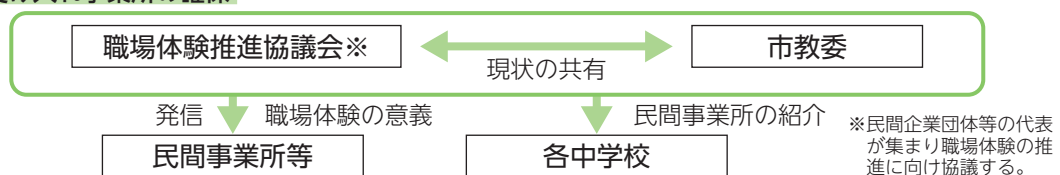
中学校2年生を対象とした3～5日間の職場体験活動を通して、人や社会との関わりを大切にしながら、将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力を育てます。

### 2 これまで

- 生徒はコミュニケーション能力や礼儀等の基本的マナーの必要性を感じるなど、大きな変容が見えてきています。
- お世話になった事業所の皆様に対し、感謝の気持ちを伝える「仙台自分づくり教育アワード」を実施し、市民に広く仙台自分づくり教育の意義について広報し、周知を図ってきました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響から、人との接触や関わりに制限があり、受け入れ事業所の確保に各学校とも苦慮している状況です。

### 3 これから

#### ● 受け入れ事業所の確保



#### ● 「仙台自分づくり教育の手引き」の活用

職場体験活動の意義を再確認し、事前・事後指導までの一貫した事例モデルや優れた実践例を示しながら、各校でより充実した指導につながるよう内容の充実を進めます。

すべての学校教育活動の中で、教師が5つの力を意識しながら指導を行い、児童生徒のたくましく生きる力を育てます。

## A (3) 仙台子ども体験プラザ事業

### 1 ねらい

公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本が提供する体験型経済教育プログラム（小学生はスチューデントシティ、中学生はファイナンスパーク）を企業や保護者等のボランティアと連携して展開し、児童生徒に社会で自立する力を育みます。

### 2 これまで

- プログラムを体験し、自分の将来の具体的な姿のイメージを持つことで、勉強をする意味や必要性をより理解し、前向きに取り組もうとする意欲につながっています。
- 体験中、児童生徒は課題が生まれたとき、主体的に周囲と相談し、解決方法を考える姿が見えてきています。
- 効果的な事前・事後学習の在り方について、学校への研修・周知の仕方を検討する必要があります。
- 子ども体験プラザでは、多様な体験の実現のため、協賛企業の拡充が必要となっています。

### 3 これから

#### ●プログラムの効果的活用のための実践例の共有

プログラムをより効果的に活用するために、各学校における有効な実践例を共有し、児童生徒の実態に合わせて事前・事後学習を行うことで、児童生徒が社会的に自立する力を育てます。

#### ●協賛企業の継続と新たな協賛企業の開拓

児童生徒の充実した活動を継続するために、現在協賛いただいている企業の継続と、多様な職種体験の実現のための、新たな協賛企業の開拓をしていきます。

## A (4) 仙台自分づくり夢教室・職業講話

### 1 ねらい

地域の方や仙台で活躍している社会人講師の話の間く機会を設け、自分の将来に対して夢や目標を持つことの意味を学び、夢の実現や目標を達成するために、意欲的に学習に取り組もうとする態度を育てます。

### 2 これまで

- 児童生徒の感想には講師への感謝の気持ちと共に将来の夢や希望について書かれています。その道のプロ、本物に出会うことで、心が刺激され、自身の生活を振り返り、将来を見通す機会となっています。
- スポーツ選手、シンガーソングライター、落語家、企業人等、趣旨に賛同いただいている様々な職業の方が講師となっています。
- 夢教室・職業講話がねらいにせまったものになるよう、事前・事後の効果的な指導が課題となっています。

### 3 これから

#### ●指導法や指導体制の充実

- ・小学生段階では、様々なものに関心を持つことや体験してみること、夢や目標を持ち、それに向かって精一杯取り組むことの大切さと、将来の夢は変わっていいこと等を伝えます。
- ・中学生段階では、現実が見え、夢をかなえることの難しさを実感する時期です。社会で働く企業人や地域の方々など、身近な大人から、「夢を持つことの大切さ」だけでなく、「夢をかなえられなくても、今の仕事や生き方に意義を見だし、幸せに生活している人はたくさんいること」等、仕事や価値観の多様性について学べるようにしていきます。
- ・講話を聞いた児童生徒が自分を振り返り、夢の実現に必要なことに気付くことができるような指導の事例を収集し、各校へ広報・周知を行っていきます。児童生徒に今と将来のつながりをより意識させることで、学びに向かう姿勢を育てます。

●仙台自分づくり教育  
応援団の拡充（教育委員会）

+

●学校支援地域本部等の活用  
などによる地域人材の発掘

児童生徒が自分を振り返り、  
夢の実現に必要なことに気付くことができる指導法の工夫

夢を実現させるための意欲的な学習活動への取組

## A (5) 楽学プロジェクト

### 1 ねらい

夏休みに小学校5・6年生と中学生を対象とし、様々な職業の方を講師として招いて、講話や実技体験を行う講座を実施し、将来に対して夢や目標を持たせるとともに、夢の実現のために意欲的に学習に取り組もうとする態度を育てます。

### 2 これまで

- 楽学プロジェクトは、市PTA協議会や市嘱託社会教育主事研究協議会、社会教育施設職員等が実行委員会を組織し、企画・運営に当たっています。
- 児童生徒が各分野の職業の専門家から、仕事の内容やその仕事に就いたきっかけ、仕事をする上での心構えに関する話を聞き、実際に仕事内容を体験することで、将来の職業や働くことの意味について考える機会づくりや、夢の実現の支援につながっています。
- コロナ禍でも、会場の変更や講座数を縮小するなど、感染症対策を講じながら継続して実施してきました。

### 3 これから

#### ● 多様な学びの提供

参加者や講師、運営スタッフのアンケート結果を踏まえ、講座の充実を図り、より興味深い講座内容にしていきます。また、ICTの活用等により、できるだけ多くの児童生徒が講座に参加できるように検討していきます。

#### ● 新規講師の開拓

これまで協力いただいている企業・施設等との継続だけでなく、新たな講師の開拓も進め、児童生徒の多様な学びの実現を目指し、意欲的に学習に取り組む態度を育てます。

## A (6) 仙台版キャリア・パスポート「仙台自分づくりノート」

### 1 ねらい

児童生徒が「仙台自分づくりノート」を活用し、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立てたり、学んだことを振り返ったりしながら、新たな学習や生活への意欲を持ち、今と未来をつなげ、将来について考えられるようにしていきます。

### 2 これまで

- 令和4年度からの実施に当たって、自分づくり教育担当教員を対象とした事務説明会等により、仙台版キャリア・パスポート「仙台自分づくりノート」の目的や実施の具体についての周知をしています。
- キャリア・パスポートは、児童生徒自身が自己理解を深めながら、主体的に将来や生き方を考えていくためのツールであることから、5つの力「かかわる力・うごく力・いかす力・みとおす力・みつめる力」との関連について整理しています。

### 3 これから

#### ● 目的や意義の周知

児童生徒が自らの活動の振り返りを記録したものを「仙台自分づくりノート」として蓄積し、小学校から高等学校まで引き継いでいきます。目的や意義の周知を継続することで、たくましく生きる力を育てるためのツールとして活用していきます。

#### ● 活用の推進

「仙台自分づくりノート」を生かした効果的な指導が各校で実践されるように、これまでの取組をつなぐ有効な指導方法や様々な学習場面における実践例等の情報を収集し、発信していきます。

学級活動やホームルーム活動を中心に、「仙台自分づくりノート」を活用し、各教科等と往還しながら、各活動を振り返って再編集したり、取捨選択したりする学習活動を行います。このような多岐にわたる様々な自分づくり教育をつなぐ活動を通して、「たくましく生きる力」を育てていきます。

## A (7) 仙台自分づくり教育研究会・調査研究

### 1 ねらい

仙台自分づくり教育研究会\*は、「社会を支える25歳」を目指して、仙台自分づくり教育の様々な活動内容や事前・事後の学習について検討したり、その効果について調査したりすることで、仙台自分づくり教育のよりよい推進を実現します。

### 2 これまで

- 今の「学び」が将来の自分や社会につながる軸（わだち）となるように学びをつなげていくことが重要であることから、仙台自分づくり教育の各活動が単発の行事で終わらないように、よりよい活動となるような提言をいただいています。
- 職場体験活動を行っている中学校2年生に対するアンケート調査（事前・事後）の結果、実施後に学習意欲の高まりや、礼儀等に気を配る必要性に気付く生徒が増えています。
- 中学校卒業後に「20歳の座談会」「25歳の座談会」を開催してきました。参加者の発言から職場体験活動が職業選択や人生において「良い影響があると感じている」という結果を得ています。

### 3 これから

#### ●義務教育9年間を見通したカリキュラム

仙台自分づくり教育の活動は多岐にわたっています。小中連携活動を生かし、義務教育9年間を見通したカリキュラムづくりを行うことで、ひとつひとつの自分づくり教育の活動をつなげ、より効果的に児童生徒の中に浸透させていきます。

#### ●広報・情報発信の工夫

仙台自分づくり教育の意義や意味を市民の方に広く周知・理解していただくため、SNSを活用します。情報発信とともに、SNS上で相互交流する中で、社会で活躍する若者から意見を集め、自分づくり教育の効果を高める方法を探っていきます。

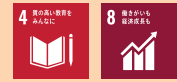
#### ●仙台自分づくり教育応援団の活用

応援団として登録している「自分づくり教育に協力していただける団体や個人」を、職場体験活動や職業講話の講師等に積極的に活用し、社会と学校をつなぎ、学びの環境の充実を図ります。

\*仙台自分づくり教育研究会：企業関係者や学識経験者、学校関係者等で組織し、自分づくり教育事業全般に対する調査・研究を行い、よりよい改善方策の意見をいただいている。

## B

## 確かな指導力の向上



## 1 施策について

- 「確かな指導力の向上」は、「仙台市教育構想2021」の基本方針Ⅲ「個性に応じた一人ひとりの学びを促し、長所を引き出す学校教育」に関連しています。
- 指導法や教材の開発、学力向上を課題としている学校への個別支援により、教員の授業力・ICT活用指導力の向上を図ることで、分かる授業を実現し、児童生徒の「基礎的知識・技能」の習得、「活用する力」の育成、「主体的な学習態度」の形成をねらいとしています。

## 2 これまでの取組

- 教員の授業力向上を目指し、教育センターで研修対象や個々の教員のライフステージ、目的に応じた研修を実施してきました。
- 仙台市標準学力検査の結果については、宮城教育大学と連携した「確かな学力研修委員会」により分析を行い、指導改善例を示したり、提案授業を行ったりしてきました。
- 学力サポートコーディネーター派遣事業、教科指導エキスパート派遣事業については、定期的に学校へ派遣し、日々の授業実践の中で教材研究や授業づくり等について直接指導することで、若手教員の教科指導力の向上及び授業の質の向上を図ってきました。

## 3 今後の方向性

- 学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点が重視されており、この視点を取り入れた教員の指導力を高めていくための取組が必要です。
- 教員構成やこれからの児童生徒に必要な資質・能力を身に付けさせる上で求められるような指導内容や方法に応じた研修体系の整備を行います。
- 「この学習内容が将来何に役立つのか」といった「学ぶ意味・意義」を常に意識しながら授業を進めることで、児童生徒の学ぶ意欲や目的意識を高め、学力向上を図ります。
- I人I台端末の活用を積極的に進め、ICTを効果的に活用していくことで、分かる授業づくりにつなげていきます。授業や家庭への持ち帰り等での効果的な活用を積極的に推進し、児童生徒の情報活用能力を高めるとともに「学びに向かう力」を育てていきます。

## 4 点検・評価の視点

- 仙台市標準学力検査における「目標値と同等以上の児童生徒の割合（基礎的知識）」の推移や全国学力・学習状況調査の全国平均との比較から各事業の状況を確認し、改善を加えながら進めていきます。

## B (1) 授業力向上を目指した研修

### 1 ねらい

教科・領域別、校種別やGIGAスクール構想に対応した研修等、喫緊の課題にも対応した研修を通して、教員の確かな指導力の向上及び授業の質の向上を図ります。児童生徒にとって「分かる授業」を実現することで確かな学力の育成を図ります。

### 2 これまで

- 基本的な研修、授業づくり研修、トピック研修、機関研修等に区分し、教職員の研修を実施しています。
- 「授業づくり研修」については、基礎的・基本的な研修を「授業づくり研修1」とし、小中高のつながりやスキルアップを意識した研修を「授業づくり研修2」として分類し、教員のライフステージに応じ受講できる希望研修を実施しています。
- 授業づくり研修数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
授業づくり研修1	20研修 54講座	19研修 47講座	19研修 45講座	18研修 41講座	18研修 41講座
授業づくり研修2	11研修 17講座	11研修 17講座	11研修 17講座	11研修 17講座	11研修 16講座

- それぞれの教科・領域、校種対象の研修を受けることができ、教員の授業力向上につながっています。

### 3 これから

#### ● 授業づくり研修

- ・ 教員が、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善していくヒントとなるような授業づくり研修を構築していきます。
- ・ 事後アンケートの分析や教員の働き方改革の視点を取り入れながら、内容や日程、回数等を精選し、授業づくり研修を構築していきます。

## B (2) 確かな学力研修委員会による結果分析・課題改善の取組

### 1 ねらい

仙台市標準学力検査等の結果を分析し、宮城教育大学と連携して課題改善のための指導方法の工夫に取り組み、各学校に周知することで、教員の指導方法の改善と授業実践力の向上を図ります。

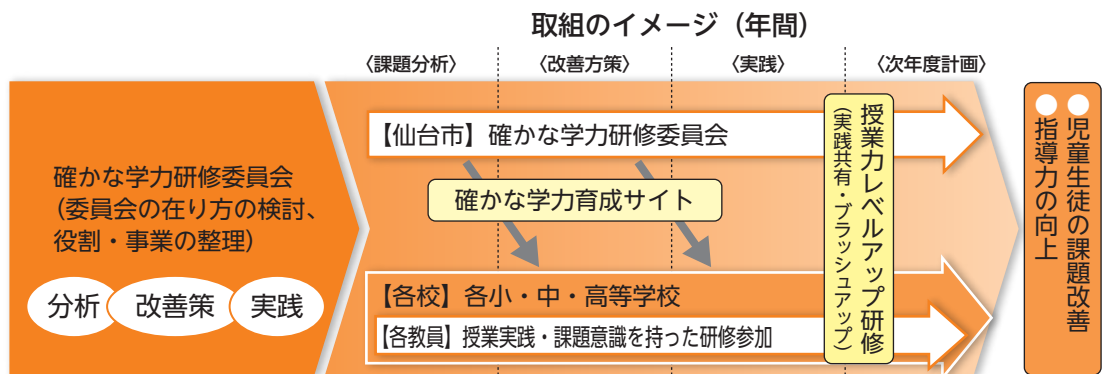
### 2 これまで

- 児童生徒の課題改善に向けて、宮城教育大学と連携し、研修委員による課題分析に基づく授業改善の方策や授業の様子を掲載した「確かな学力育成サイト」の開設を行っています。
- 授業力レベルアップ研修のオンライン実施によって、個々の教員や学校のニーズに応じ、参加できる研修体制づくりを進めてきました。
- 研修委員は限られた研修回数の中で、課題分析、改善事例の作成、授業提案、研修の実施が求められており、事業のねらいを再確認し、整理が必要です。

### 3 これから

#### ● 確かな学力研修委員会の方向性

研修委員による課題分析をもとに、課題改善の方策を探ります。





## B (3) ICTを活用した教育の推進

### 1 ねらい

児童生徒が、これからの社会を、たくましく、しなやかに生き抜く力を育むために、ICTを積極的に活用し、学習の基盤となる資質・能力である「情報活用能力」と「学びに向かう力、豊かな創造性」を育成する必要があります。教員への研修の充実や支援体制の強化等を進めることで、教員のICT活用指導力の向上を図ります。

### 2 これまで

- GIGAスクール構想の推進に向け、1人1台端末の日常的な活用を進めています。
- 授業における活用を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実や、「探究的な学び」を推進するため、教員向けの各種研修に加え、管理職への研修を実施し、学校全体でICTを活用した指導力の向上に取り組むよう進めてきました。
- ICTに関する学校現場の課題に対応するため、全市立学校へICT支援員を配置し、授業や校務の支援を行っています。
- 今後も、児童生徒に等しく情報活用能力を育成するため、教員により情報端末の活用頻度に差が生じることのないよう、学校内でのスキルアップを図りながら、教員の情報端末を活用した指導力の向上を広く図る取組が必要となります。

### 3 これから

#### ● ICTの積極的活用

- ・ 研修の充実やICT利活用事例の発信等を継続していくことで、「個別最適な学び」「協働的な学び」「探究的な学び」の推進を図っていきます。
- ・ 校内研修でリーダー的な役割を担うミドルリーダーへの養成的な研修を行い、情報活用能力の育成に関する内容を含めた校内研修の充実を図る取組を進めます。
- ・ 市立小中学校等に1人1台端末で活用できるデジタルドリルを導入し、児童生徒の個別最適な学びの実現や、教員の授業改善を進めます。
- ・ 情報モラル教育を徹底しながら、1人1台端末の家庭への持ち帰りを進め、学校と家庭との学びの往還を進めます。学習指導要領の趣旨の実現に向けた「情報活用能力の育成」と「学びに向かう力と創造性の育成」を図っていきます。

## B (4) 学力サポートコーディネーター派遣事業

### 1 ねらい

学力向上に向けて教科の授業改善に重点的に取り組む学校に対し、教科指導に優れた退職校長・教員による学力サポートコーディネーター（国語、算数・数学、社会、理科、英語）が定期的に訪問して、授業に積極的に関わるとともに、校内研修や教科部・学年部の研究等を通して、教員の教科指導力の向上及び授業の質の向上を図ります。

### 2 これまで

- 学力サポートコーディネーターのサポートを受けた若手教員の指導力向上により、児童生徒にとって分かりやすい授業が実現し、学習意欲の向上につながっています。
- 指導を受けた教員が自信を持って授業に向かうこと、児童生徒に向き合うことにつながっています。
- 授業づくりについて、事前・事後の指導を複数回受けることにより、「自分の良さや癖、課題について知ることができた」「課題改善の方向性を見つけることができた」「授業を行うことが楽しくなった」等の声が寄せられています。

### 3 これから

#### ● 学校現場での動きを見ながら直接指導

引き続き学力サポートコーディネーターが定期的に学校を訪問して、授業の中で、良かった点、課題がある点を直接指摘・指導し、改善点が見える化することで、教員の指導改善や自信につながっていきます。

#### ● サポート体制の工夫

学校全体、学年部、教科部など、担当教員や学校の様々なニーズに応じて積極的に関わるようにし、教員の確かな指導力向上に資するようにします。

## B (5) 教科指導エキスパート派遣事業

### 1 ねらい

教科指導に優れた退職校長・教員を教科指導エキスパートとして学校へ派遣し、チーム・ティーチング等による授業補助を行いながら、教材研究や授業づくり、学級経営等について指導し、若手教員の指導力の向上及び授業改善を図ります。

### 2 これまで

- 若手教員が日頃抱えている課題に対して、豊富な経験と専門知識を持った教科指導エキスパートの丁寧な指導により、指導力・学級経営力の向上につながっています。
- 教員にとっては、実際の指導場面を捉え、改善点について指導や助言を受けることができるため、実践的、具体的に理解が深まっています。
- フレッシュ先生（新任1年目～4年目の教員）の割合が増加している状況であり、校内でのOJT等を活用した若手教員の資質向上は急務となっています。

### 3 これから

#### ●若手教員に対するOJT

若手教員の増加により、若手ならではの悩みや、日々の指導から抱えている課題等に応じた指導を行う教科指導エキスパートへの求めが近年多くなっています。校内でより多くの教員の指導力向上・学級経営の充実を図り、OJTの機運も高めていきます。

## C

## きめ細かな指導の充実



## 1 施策について

- 「きめ細かな指導の充実」は、「仙台市教育構想2021」の基本方針Ⅱ「健やかな心身を備え、豊かな人生を拓く力を育てる学校教育」に関連しています。
- 異校種間の連携や、少人数指導等のための人的サポートなどを通して、学力の向上に向けたきめ細かな指導が展開できる体制を確立することにより、児童生徒の「基礎的知識・技能」の習得や「活用する力」の育成、「主体的な学習態度」の形成を図ることをねらいとしています。

## 2 これまでの取組

- 小中学校の教職員が情報交換会や研修会を通して、校種間、学校間の理解を深め、それぞれの役割を再確認することで、授業改善や指導力の向上に生かしてきました。
- 「放課後等学習支援事業」は、平成30年度から、小学校3、4年生を対象に算数の学習支援員を配置し、令和2年度からは、対象を小学校2年生の算数から中学校3年生の数学までと拡充し、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導の充実を図ってきました。
- 小学校における教科担任制や理解に差が出やすい中学1年生の数学での少人数指導を展開することで、小学校と中学校の学習のスムーズな接続も図ってきました。

## 3 今後の方向性

- 小中学校間の指導の連続性や校種間の円滑な接続を目指して、学校・家庭・地域が一体となって豊かな学びの環境を創造する地域連携と、義務教育9年間を通じた学びを実践していきます。それにより、学校生活へのスムーズな接続や小中学校の教員の相互理解の促進による教育力の向上を図ります。
- 忍耐力や自己制御、自尊心・自己肯定感等の社会的情動スキル、いわゆる非認知的な能力といったものを幼児期から育むことが、大人になってからの生活においても重要であるとの認識が高まっています。そこで、幼保小連携の一層の推進を図り、「幼児期からの切れ目の無い教育」を推進します。
- 授業における学習支援とともに、放課後や長期休業を活用した個別の指導、それらと連動した家庭学習の一層の充実など、よりきめ細かな指導に取り組みます。
- ICTを活用し、児童生徒の個別の特性や学習進度・到達度等に応じて指導・学習時間等を工夫する指導の個別化、興味・関心・キャリアの方向性等に応じて学ぶ個性化を通し、自らの学習を調整する態度を育てます。また、不登校児童生徒等の学習支援のため、学習機会の確保や学校とのつながりの継続等、個別の状況に応じた対応を図ります。

## 4 点検・評価の視点

- 仙台市生活・学習状況調査における小学校低学年（2年生・3年生）や中学校1年生の「学校生活」や「授業」への質問の回答割合の推移を観察し、事業の効果を確認しながら、改善を加えていきます。
- 非常勤講師や学習支援員の配置に関しては、仙台市標準学力検査における対象学年、対象教科の「目標値と同等以上の児童生徒の割合（基礎的知識）」の推移等から、その状況を確認し、改善を加えながら事業を進めていきます。

## C (1) 小中連携推進事業（学びの連携の推進）

### 1 ねらい

小中学校間の指導の連続性や校種間の円滑な接続を目指し、学校・家庭・地域が一体となって豊かな学びの環境を創造する地域連携と、義務教育9年間を通じた学びを実践する中で、学校生活へのスムーズな接続や教職員の相互理解の促進による教育力の向上を図ります。

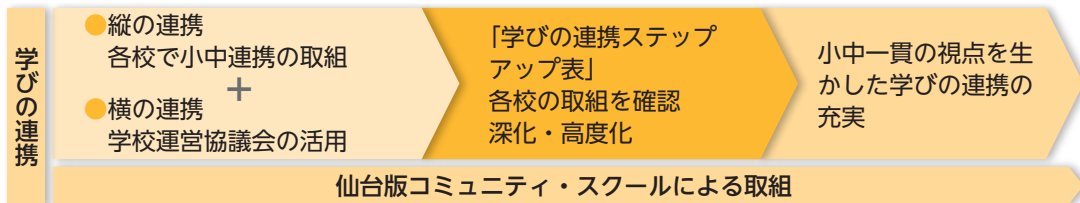
### 2 これまで

- 義務教育9年間を通して、系統的な教育を途切れなく行うことができるように、小中学校の教員による相互の授業交流や自分づくり教育等のカリキュラムを共同で作成・実践することにより、学習及び生活指導面での連携が深まっています。
- 連携する小中学校の構成によって取組の推進状況が異なります。複雑な学区編成の校区では、伝統的なつながりや地域性等の様々な要素が絡み合っただけで一律に連携することが難しい状況となっています。
- 感染症により交流が制限され、連携した活動に影響を与えています。

### 3 これから

#### ●小中一貫の視点を生かした学びの充実

「学びの連携ステップアップ表」に照らしながら、各校の小中連携を中心とした学びの連携について教育委員会全体で推進していきます。また、その推進状況を確認しながら、各校の取組を深め、高めることや自分づくり教育における9年間を見通したカリキュラムを作成することで、小中一貫教育の視点を持って取組を強化していきます。



## C (2) 幼保小連携事業

### 1 ねらい

新入学児童の学校生活への円滑な接続を図るため、幼保小それぞれの実践や情報を共有し、幼保小の相互理解や連携の重要性について理解を深めます。教職員の情報交換や交流の機会を通して共通理解を図り、入学当初のスタートカリキュラム\*の工夫・改善、充実を進め、幼児期からの切れ目のない教育を目指します。

### 2 これまで

- 教職員間の情報交換が促進し、互いの活動における育ちや学びについて共有するよい機会となっており、連携が進んだ幼保小では、小学校入学時や接続期カリキュラム（アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム）の実施について意見交換を行うことで理解が深まっています。
- 幼稚園や保育園（所）の教職員と小学校の教員のお互いの立場や子どもの育ちの違いについて理解が進んだことで、個に応じたきめ細かな対応を行うことができ、児童のスムーズな適応が見られています。
- 多くの幼稚園や保育園（所）から新入生を受け入れる小学校では、連携の仕方が課題となっています。

### 3 これから

#### ●幼保小の円滑な接続

- ・国の情報を収集しながら、子供未来局、仙台市私立幼稚園連合会、仙台市保育所連合会と協力し、小学校区における幼保小連携の在り方を検討します。
- ・幼保小合同研修の実施を通して、小学校区内の幼保小が接続期カリキュラムのねらいや連続性について理解し、情報交換や意見交換を行えるよう支援します。
- ・各学校において、カリキュラムマネジメントの視点から、スタートカリキュラムを見直し、より子どもの実態に合ったカリキュラムとします。

\*スタートカリキュラム：小学校入学直後の約1か月間において、児童が幼児期に体験してきた遊びを通じた学びとこれからの小学校生活の中心をなす教科学習の要素の両方を組み合わせた、合科的・関連的な学習プログラムであり、小学校第1学年スタート時における学校生活へのスムーズな適応を図るもの。幼稚園・保育園(所)における卒園前の小学校への準備プログラムをアプローチカリキュラムといいます。

## C (3) 算数・数学における学習支援事業

### 1 ねらい

系統的な学習が必要な算数・数学の学習において、学習支援員を配置し、授業支援や放課後等の時間を利用して支援を行い学習意欲の低下を防ぎ、学習内容の確実な定着を図ることを目指します。

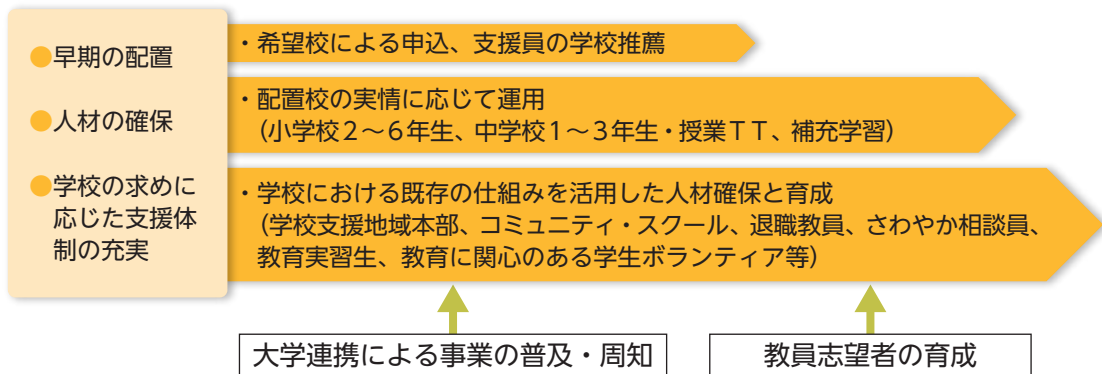
### 2 これまで

- 令和2年度には203名、令和3年度には183名、令和4年度には173名を配置しました。
- 学習支援員が、算数・数学が苦手な児童生徒に授業サポートを行うことで、学習内容の定着や学習意欲の向上につながっています。また、支援員がいることが児童生徒の安心感にもつながっています。
- 学習支援員の配置は教員の児童生徒に向き合う時間の確保にもつながっています。
- 学校のカリキュラムや要望に合う支援員確保、年度始めの早期配置が課題となっています。

### 3 これから

#### ●学習支援員の確保の体制づくり

算数・数学の学習において児童生徒のつまづきによる学習意欲の低下の防止や、苦手な子が安心して学習に取り組む環境づくりのために支援員の配置を進めます。



※「放課後等学習支援事業」から、事業の浸透を図り、「算数・数学における学習支援事業」と名称を変更

## C (4) 小学校高学年教科担任制事業

### 1 ねらい

担当教員の専門性を生かした指導を行うことで、授業の質を高めるとともに、児童一人ひとりの学習意欲を高め、「確かな学力」の育成を図ります。加えて、学級担任制から教科担任制に緩やかに移行し、教科担任による授業に児童が慣れていくことで、中学校へのスムーズな接続を目指します。

### 2 これまで

- 専科での教科担任制を進めることで、指導の質が高まり、児童の学習意欲に向上が見られます。
- 教科担任が授業の準備や教材研究を行うことで、学級担任の業務が分散され、負担軽減につながっています。また、教科担任制に慣れることで、中学校へのスムーズな接続につながっています。
- 小学校高学年における教科担任制を行い、学級担任だけでなく児童を複数の目で見ることで、多角的な見方をすることができ、児童理解に生かすことができます。

### 3 これから

#### ●適切な配置と効果の検証

仙台市標準学力検査等の結果及び学校事情等から教員等の配置を検討し、有効活用を図ります。また、国や先進都市の情報を収集しながら、地域や学校等の実情に応じた取組が可能となるよう配置の充実を図り、積極的に教科担任制を推進します。

また、効果検証についても学力の経年変化を踏まえ、適切に実施していきます。

## C (5) 中1数学少人数学習推進事業

### 1 ねらい

講師の配置により、少人数指導やチーム・ティーチングによる指導体制を充実させることで、生徒一人ひとりの学習状況に応じたきめ細かな指導を行い、教科の学習の基礎的知識・技能の確実な習得を図ります。

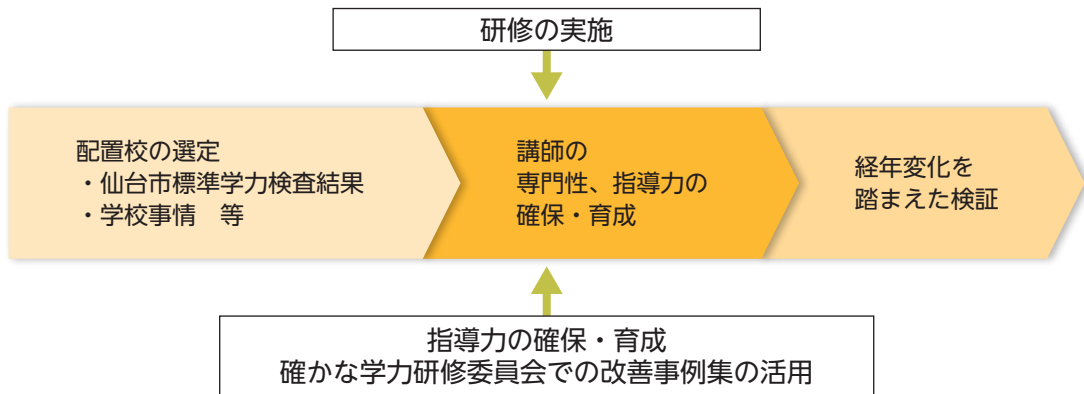
### 2 これまで

- 仙台市標準学力検査等の結果及び学校事情等を検討し、配置校を決定しています。
- 講師の配置により、少人数の学習集団に分割した指導や習熟度別小集団学習、チーム・ティーチング等による指導など、生徒の状況や単元内容に合わせ、指導体制を充実させることができています。
- 小集団での学習や複数教員での学習を行うことで、一人ひとりの生徒に向き合うことが可能となり、基礎学力の定着につながっています。

### 3 これから

#### ● 非常勤講師の授業力向上

配置校が計画的に事業を進められるよう支援していくとともに、研修を行い、非常勤講師の授業力の向上を図っていきます。学力の経年変化等から分析し、適切な配置につなげていきます。



## D

## 学習環境等の充実



## 1 施策について

- 「学習環境等の充実」は、「仙台市教育構想2021」の基本方針Ⅱ「健やかな心身を備え、豊かな人生を拓く力を育てる学校教育」、基本方針Ⅲ「個性に応じた一人ひとりの学びを促し、長所を引き出す学校教育」、基本方針Ⅳ「生涯にわたり誰もが主体的に自分らしく学べる機会の充実」に関連しています。
- 授業が成立するためには、一人ひとりの児童生徒が落ち着いて参加することが前提となります。児童生徒が安心して授業に集中できること、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保できる環境の整備をすることで、「確かな学力」を育むことをねらいとしています。また、社会教育施設との連携を図り、学習活動の充実に努めていきます。

## 2 これまでの取組

- 幼稚園・保育園（所）と小学校の接続については、幼児期に体験してきた遊びを通じた学びの要素と、小学校での生活科を核とした教科学習の要素を組み合わせた「スタートカリキュラム」の全市展開や、各小学校区での連携の取組を進めてきました。
- 「小1生活・学習サポーター事業」では、入学当初の児童が安心して学校での集団生活を営むことができ、落ち着いて学習に取り組む環境づくりにつながっています。また、サポーターが、小学校1年生だけの支援に留まらず、その他の学校支援ボランティア活動を行うきっかけにもなっています。
- 発達障害のある子どもへの対応を行う特別支援教育指導補助員の配置や児童生徒の心のケアを行うスクールカウンセラー、地域住民等による相談支援を行うさわやか相談員など、人的環境を整えてきました。
- コロナ感染症による影響で、GIGAスクール構想が一気に進展しました。1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを整備してきました。
- 校務支援システムの導入等により、学校事務の軽減、効率化等を推進し、教員の指導充実のための時間を確保していくことにつながりました。

## 3 今後の方向性

- 新入学児童が安心して集団生活や学習に取り組める環境を整えるため、地域の方や保護者をサポーターとして配置し、担任の指導を支援することにより、幼稚園等から小学校へのスムーズな接続ができるようにします。
- 学級内に落ち着いた雰囲気醸成し、児童生徒が互いに尊重し学びに向かおうとする意識を育てます。
- 支援員やボランティア等の地域人材など様々な人々が児童生徒と関わる機会を創出することで、豊かな学びの環境づくりを進めていきます。
- 社会教育施設と関連した教育課程の検討や学習活動の工夫を進めます。
- ICTを活用した学習活動の充実を支える環境整備を進めます。また校務のデジタル化など、学校における働き方改革の実現に向けた取組を進めるとともに、ICTを活用した教育の推進のために必要な体制を整備します。

## 4 点検・評価の視点

- 仙台市生活・学習状況調査における「学校生活」や「道徳心」に関する質問項目等への肯定的回答の割合から、児童生徒が落ち着いた雰囲気です学校生活が送れているか状況を把握します。各事業の状況を確認し、改善を加えながら進めていきます。

## D (1) 小1生活・学習サポーター事業

### 1 ねらい

児童が安心して集団生活や学習に取り組める環境を整えるため、小学校1年生の学級に4月から3月までの各校の必要な期間内で、地域の方や保護者（1年生の保護者を除く。）を「小1生活・学習サポーター」として配置します。サポーターが、担任の指導をサポートすることにより、幼稚園等から小学校への適応を図り、円滑な接続ができるようにします。

### 2 これまで

- サポーターの配置数は、年々増加しており、事業が広がりを見せ、活動が定着してきています。
- 児童は「エプロンせんせい」などと呼び、児童の生活の安定、安全・安心な学校生活につながっています。
- サポーターからは、「活動を通して、子どもたちから元気をもらっている」という声が多く寄せられており、サポーターのやりがい、生きがいにつながっています。
- 継続的にサポーターとして登録している人が増えてきています。

### 3 これから

#### ● サポート体制の検討・充実

- ・ サポーターの存在は児童の安心感や教員の負担軽減につながっていますが、中にはサポーターに頼りすぎてしまう児童も見られます。サポーターが、児童の自立を促すことを意識するよう徹底し、対応やサポート期間を検討していきます。
- ・ サポーターの負担が大きくなっている学校や、サポーターの確保に苦勞している学校もあります。児童の自立を促しつつ、担任とサポーターが連携を密にして児童の学びを支えていくためのサポート体制を検討していきます。

## D (2) 特別支援教育における学習指導・生活指導補助

### 1 ねらい

通常の学級に在籍する発達障害等のある児童生徒を対象とした特別支援教育指導補助員及び肢体不自由のある児童生徒を対象とした特別支援教育介助員、また在籍数が多く指導が困難となっている特別支援学級に、特別支援学級指導支援講師及び特別支援学級指導支援員を配置し、学級担任等の学習指導・学校生活支援の補助等を行うことで、多様な教育的ニーズに対応するための教育環境の整備を行います。

### 2 これまで

- 特別支援教育指導補助員、特別支援学級指導支援員については、対象となる児童生徒の増加に伴い学校からの申請も増えていることから、令和4年度より増員し、学級担任等の補助を行うための人員を配置しています。
- 支援員等の配置により、個に応じた対応を行うことで、落ち着いた状況や学習環境づくりにつながっているケースが多く見られます。

### 3 これから

#### ● 支援員等の資質向上及び各学校の支援体制の充実

支援員等に対する研修内容を工夫することにより資質向上を図るとともに、学校訪問等を通じて、校内体制の中で支援員等を有効活用できるよう助言等を行い、学校全体の教育力の向上と支援体制の充実に努めます。



## D (3) 指導困難学級対策

### 1 ねらい

学級内に配慮を要する児童生徒が在籍し、全体が落ち着きのない状態となっている学級に対し、非常勤講師を配置することにより授業の成立を図ります。

### 2 これまで

- 学校現場では、配慮を要する児童生徒が増えている現状があり、申請も増えている状況です。そのため、非常勤講師を増員し、学級担任等の補助を行うためより多くの人員を配置しています。
- 非常勤講師の配置による未然防止や早期発見・早期対応等により、学級の状況は改善傾向にあります。しかし、児童生徒の問題行動等が見られており、特に小学校における発生の割合が高まっています。
- 指導困難学級の未然防止や状態の改善のためには、非常勤講師の配置とともに学校の組織的対応が大きな課題となっています。

### 3 これから

- **非常勤講師の適切な配置**  
児童生徒の問題行動等の状況及び学校事情等から十分に検討した上で配置校を選定し、指導困難な状況の未然防止や早期発見・早期対応を進めていきます。
- **組織体制や指導方法等の改善・効果の検証**  
学校訪問等を行い、学校の組織体制や教員の指導力、指導方法の改善を図るとともに、効果検証についても問題行動等件数の経年変化を踏まえ、適切に実施していきます。

## D (4) スクール・サポート・スタッフ配置事業

### 1 ねらい

小中学校等において、学習プリント等の準備や採点業務の補助、来客・電話対応、消毒作業等を担うスクール・サポート・スタッフを配置することで、教員がより児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整えます。

### 2 これまで

- 本市のスクール・サポート・スタッフは、新型コロナウイルス感染症対策における学校の消毒作業の負担軽減のため、令和2年7月から配置を開始しました。
- 令和4年度より消毒作業以外にも従事可能な業務を拡大し、学習プリント等の準備、会計事務、データ入力など、幅広い教員業務支援に活動の幅を広げています。
- 令和4年度は140校にスクール・サポート・スタッフを配置しています。

### 3 これから

- **教員支援体制の充実**  
児童生徒に対して効果的な学習指導を行っていくためには、教員の時間的・精神的なゆとりを確保し、教員が児童生徒一人ひとりに向き合いながら、自身の指導力の向上等にも取り組めるようにすることが大切です。  
今後も、必要に応じてスクール・サポート・スタッフを配置するとともに、効果的な活用事例を学校間で情報共有していくなど、教員支援体制の充実に努めていきます。

## D (5) 仙台市さわやか相談員配置事業

### 1 ねらい

教員とは異なる第三者的な存在として「さわやか相談員」を配置することで、児童生徒が気軽に相談でき、悩みや問題を解決するとともに、いじめや不登校、問題行動などの未然防止につなげます。

### 2 これまで

- 令和3年度は、小学校90校（90名）、中学校29校（32名）、特別支援学校1校（1名）にさわやか相談員を配置しています。令和3年度の相談件数は86,170件、支援した児童生徒数は延べ241,061名でした。
- 教員やスクールカウンセラーとは異なる第三者的な存在である相談員が教員とは違う視点から児童生徒に関わることで、児童生徒にとっても気軽な相談相手として、様々な悩みや不安、ストレスの緩和について支援することができています。

### 3 これから

#### ●仙台市さわやか相談員の配置

各学校の実態に応じて、相談員の活動時間、活動場所、活動内容などを工夫しながら、より効果的な活用方法を検討し、事業を実施することで、児童生徒の悩みや問題を解決するとともに、いじめや不登校、問題行動などの未然防止につなげます。

また、児童生徒理解や児童生徒との関わり方に関する研修を通して、相談員の力量の向上に努めていきます。

## D (6) 社会教育施設等との連携

天文台	プラネタリウム、展示、望遠鏡等の特殊機材を使用して、学校現場では実施が難しい発展的な学習を行うことで、学校における理科教育を支援します。市立中学校1年生は授業の一環として全員が受講します。
科学館	科学技術に関する知識の普及啓発を図るため、市立中学校2年生及び特別支援学校、院内学級の中学生を対象として、学校現場では実施が難しい実験・観察を体験させる実験学習や展示物から課題を選択する展示学習などを実施します。
博物館	学校との連携事業として、来館した児童生徒の博物館での見学や体験学習を支援します。また、講師が学校に向いて学習プログラムを実施する出前授業や、所蔵資料の写真パネル等を貸出教材として提供する事業を展開することで、学校での授業づくりや児童生徒の学びを充実させるための支援も行います。
歴史民俗資料館	普及啓発事業として、企画展等に関連した講座、展示解説、体験活動等を実施するとともに、石臼体験や行灯体験を学校の校外学習において希望により実施します。また、児童の自由研究時の参考資料等として学習に役立つ「れきしみんぞく子ども辞典」「こども☆コーナー」をホームページで紹介しています。
地底の森ミュージアム	普及啓発事業として、企画展に関連した講座・体験イベントなどを実施します。また、学校から施設までの往復バス代を補助し、施設で授業を行う利用学習事業のほか、中学校の職場体験活動の受入れを積極的に実施します。さらに、野外展示を活用した環境学習、出前授業・講座なども実施します。
縄文の森広場	「縄文まつり」、「週末体験講座」等、楽しく体験しながら学ぶことのできるイベントを実施します。また、学校教育との連携事業として、利用学習や出前授業の充実を図るほか、児童館や市民センターと連携した授業を実施します。
図書館	読書活動支援として、学校に向いて行うブックトークや朝読書用等図書のパッケージ貸出、せんだい電子図書館の活用支援を行います。また学校が希望する図書資料の授業用図書貸出、図書館における施設見学や調べ学習の支援等を実施します。
大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>●夏休み大学探検 中学生を対象に、夏休みに、東北大学の教員による最先端の研究についての講義の聴講や、研究施設での体験活動の機会を提供します。</li> <li>●子ども科学キャンパス 小学6年生を対象に、夏休みと秋休みの各2日間、東北大学工学研究科・工学部創造工学センター「発明工房」において、大学の教員の指導のもと、科学の実験を行うなど、実際の大学の環境を体験できる機会を提供します。</li> <li>●東北大学出前授業 東北大学の教員等が小中学校に向き、大学で行われている最先端の科学の研究分野についての授業を行います。</li> </ul>

## E

## 家庭や地域との連携・協働

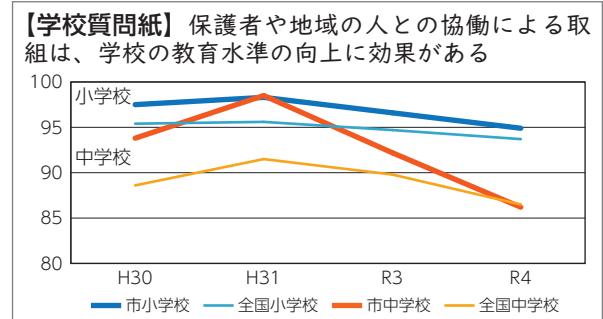
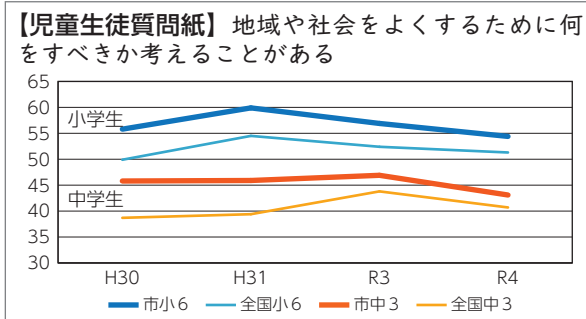


## 1 施策について

- 「家庭や地域との連携・協働」は、「仙台市教育構想2021」の基本方針Ⅱ「健やかな心身を備え、豊かな人生を拓く力を育てる学校教育」、基本方針Ⅴ「学びでつながり、郷土を愛し絆を深める地域づくり」に関連しています。
- コミュニティ・スクール等を活用した家庭や地域との連携・協働により、学習する習慣の定着を図ります。また、「『学習意欲』の科学研究に関するプロジェクト」の分析結果から明らかとなったことを啓発することにより、学ぶことの必要性や、興味・関心の向上を図ることを施策のねらいとしています。

## 2 これまでの取組

- 「地域とともに歩む学校」を、本市の学校の教育活動すべての基盤として位置付け、学校支援地域本部等を活用しながら、地域ぐるみで学校の教育活動を支援することで、児童生徒に、豊かな体験活動の機会を与えることと、市民の経験や能力を生かす場を提供していくことを目指してきました。
- 東北大学と連携して進めている「『学習意欲』の科学研究に関するプロジェクト」において、仙台市標準学力検査と仙台市生活・学習状況調査の結果を分析し、望ましい学習習慣づくりや生活習慣づくりを啓発してきました。
- 全国学力・学習状況調査の地域との関わりについての調査項目を見ると、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と回答した本市の児童生徒の割合は、全国平均を上回って推移しています。学校質問紙調査の「保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がある」と回答した割合は、全国平均と同等以上で推移しています。



## 3 今後の方向性

- 家庭や地域との連携・協働により、学びの土台となる家庭、地域の教育環境の充実を図るとともに、コミュニティ・スクールを活用しながら、地域総ぐるみで子どもを育てる環境づくりを進めていきます。
- 自己肯定感、自己有用感と学力との間には、正の相関関係があると見られることから、学校と家庭が連携して子どもの良さや頑張りを認める取組を進めます。
- 家庭での子どもとの良好なコミュニケーションにより、子どもたちの目標意識や知的好奇心といった学習への意欲を育てるとともに、学びに向かう力を育みます。
- 望ましい生活習慣や学習習慣の定着は確かな学力を身に付けるための前提となるものであり、学校と家庭との協働を進めます。
- デジタル教科書の導入や1人1台端末の整備に伴い、ICTを活用した家庭学習の取組等について検討していきます。

## 4 点検・評価の視点

- 仙台市生活・学習状況調査の「家庭生活」や「社会・地域とのかかわり」、「自己肯定感」に関する質問の肯定的割合の推移や全国学力・学習状況調査の家庭・地域に関する質問の全国平均との比較等から状況を確認し、改善を加えながら進めていきます。

## E (1) コミュニティ・スクール推進事業

### 1 ねらい

学校評議員会\*や学校関係者評価委員会\*、地域教育協議会\*などの既存の会議の機能を包括した「学校運営協議会」を設置し、学校や家庭、地域が目標やビジョンを共有した上で、一体となって学校づくりを行い、児童生徒の豊かな学びの環境を創ります。

### 2 これまで

- 平成30年、令和元年にコミュニティ・スクール検討委員会を開催し、本市の実情に応じたコミュニティ・スクール（CS）のあり方や運営方法について考察しました。
- 仙台版CS導入の手引きを作成して、各学校へ周知し、令和2年度より推進しています。
- 令和4年度末までに、すべての市立学校・園（小学校118、中学校64、高等学校4、中等教育学校1、特別支援学校1、幼稚園1）が学校運営協議会を設置しています。
- CSは地域総ぐるみでの教育の実現に向けた仕組みであるため、庁内及び関係機関と連携を図りながら推進体制を構築していきます。

### 3 これから

#### ●運営に関する伴走的な支援

すべての学校が学校運営協議会を設置した後は、地域に浸透を図り、持続的かつ効果的な運営方法や学校支援地域本部とのより良い関わり方を検討し、支援していきます。

- ・CSの効果的な運用や活用に関する研修会、学校運営協議会の連絡協議会等を実施し、具体的な実践や好事例、成果・課題を共有します。
- ・各校の具体的な学校運営上の実践や好事例を受けて、今後運営していく上で必要な内容をまとめた、運営の手引きを作成します。
- ・伴走的な支援を行うため、アドバイザーを配置し、学校の相談を受け、支援や的確なアドバイスをを行います。
- ・広く市民に意義や役割についての理解を図る方法を検討します。

## E (2) 学校支援地域本部事業

### 1 ねらい

地域住民が学校を支援する活動を通して、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育成する体制を構築することにより、児童生徒には豊かな体験活動の機会を、地域住民には生涯学習の成果を生かす場を提供するなどして、地域や家庭の教育力の向上を図り、児童生徒の豊かな学びの環境づくりを目指します。

### 2 これまで

- 学校支援地域本部を介し、地域や保護者が連携して、学校の求めに応じた支援を行うことで、児童生徒の豊かな学びの環境づくりが実現しています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、消毒などの環境整備活動に対する支援が増加し、学校への大きな支援となっています。また、長年スーパーバイザー（SV）を務めてきた方々が世代交代し、新しいSVになってきており、SVの力量の向上と後継者育成が課題となっています。

### 3 これから

#### ●仙台版コミュニティ・スクール（CS）との連携・協働

すべての学校にCSが導入され、学校支援地域本部でも学校運営協議会の協議内容を受けての活動が可能になります。これまでどおり体験学習やリアルな学びの充実、児童生徒の活躍の場づくり等、学校の求めに応じた支援を継続するとともに、仙台版CSとの連携・協働のための環境整備と体制づくりを進めていきます。

#### ●活動充実のために

SV連絡協議会や区の代表者による本部訪問など、SVとしてのスキルアップや学校支援地域本部の運営に役立つ情報交換、研修を実施します。学校支援地域本部の活動を「地域をつなぐ」活動につなげていきます。

\*学校評議員会：地域や保護者代表、学識経験者などによる学校評議員を校長が招集し、校長の求めに応じて学校運営等に関する意見を述べる会議体。

\*学校関係者評価委員会：児童生徒の現状や課題から、学校・家庭・地域が協働して当該年度の重点事項を設定し、それぞれの立場から改善活動に取り組み、その成果を次年度に生かしながら、新たな重点目標設定につなぐPDCAサイクルによる改善活動を検討する「協働型学校評価」のための会議体。学校・家庭・地域の代表者で構成される。

\*地域教育協議会：学校支援地域本部の活動内容や学校の状況等の情報を共有した上で、その方針や活動について話し合いを行う会議体。

## E (3) 家庭学習推進事業

### 1 ねらい

自ら課題を見付けて学ぶ力を身に付けるため、家庭における学習習慣の確立を図ります。家庭と連携し、1人1台端末等も活用しながら、学ぶ楽しさを感じ、必要な学習を自分で考えて取り組む力や課題を解決する力を高めます。

### 2 これまで

- 家庭での学習習慣づくりを目的に、家庭学習ノート（国語・算数）を作成して、市内小学校3・4・5年生に配布し、親子の触れ合いを通して学ぶ機会の創出に取り組んできました。
- 児童が自らの課題に気付き、学習方法や計画について、考えながら家庭学習を進めることができる内容に改善を図ってきました。
- 家庭によって家庭学習ノートへの取り組み方に差異が見られることや、活用についても、保護者・児童・教員の意識に違いが見られるため、学校を通じて保護者等への周知・理解を図っています。

### 3 これから

#### ●家庭用啓発資料等の作成

家庭と連携し、児童生徒が自ら課題を見付けて学ぶ力を育む上で、家庭学習の重要性についての一層の理解を得るため、ウェブサイト等を活用し、児童生徒が自主学習に取り組む上で参考となる資料や家庭向けの啓発資料等による周知を図ります。

#### ●学校の情報化に伴う対応

デジタル教科書の導入や1人1台端末の整備に伴い、端末の家庭での活用を推進します。また、ICTを活用した家庭学習の取組について、家庭との共通認識の形成やより効果的な活用方法を検討していきます。

## E (4) 「学習意欲」の科学研究に関するプロジェクト

### 1 ねらい

東北大学の研究者と学校関係者により構成する「『学習意欲』の科学研究に関するプロジェクト」委員会を設置し、仙台市標準学力検査及び生活・学習状況調査のデータ等をもとに、脳科学や認知心理学の観点から、見えにくく、学力の根幹を成す学習意欲等について科学的な分析を行います。分析結果をもとに、児童生徒のより良い生活習慣につなげていきます。望ましい学習・生活習慣づくりの普及啓発・活用を行います。

### 2 これまで

- 東北大学加齢医学研究所の分析等により、以下の内容が明らかとなり、学校や家庭にリーフレットによる啓発と児童生徒への指導資料作成を行ってきました。
  - ・「自己肯定感と学力には相関関係があり、自己肯定感を高める授業づくりの工夫や家庭でのコミュニケーションが重要である。」（平成27年度版）
  - ・「短時間でも継続的な家庭学習や夢をかなえるために勉強するといった目的意識を持った取組で効果的に学習の理解が進む。」（平成30年度版）
  - ・「朝食、読書、睡眠時間、家事の手伝いなどの生活習慣や地域の歴史への興味や自分の考えを積極的に伝えようとする態度の強さも学力により影響を及ぼす。」（令和元年度版）

### 3 これから

#### ●調査研究の継続と変化する教育環境の中での課題

仙台市生活・学習状況調査において、自己肯定感など経年で継続的に注視する一方で、児童生徒を取り巻く環境が激しく変化、複雑化する中、実態をタイムリーかつ的確に把握するための調査項目を検討します。

#### ●教職員・保護者への啓発

生活・学習習慣と学力との関わりから明らかになった課題や研究結果をウェブサイト等も活用し、効率的に教職員・保護者等への啓発を図ります。

#### ●児童生徒への活用

児童生徒が生活・学習習慣と学力の関係について、課題や改善策を理解し、自律的に望ましい習慣を調整・改善できるよう、児童生徒の指導に活用します。

## F

## 学力、生活・学習状況の的確な把握

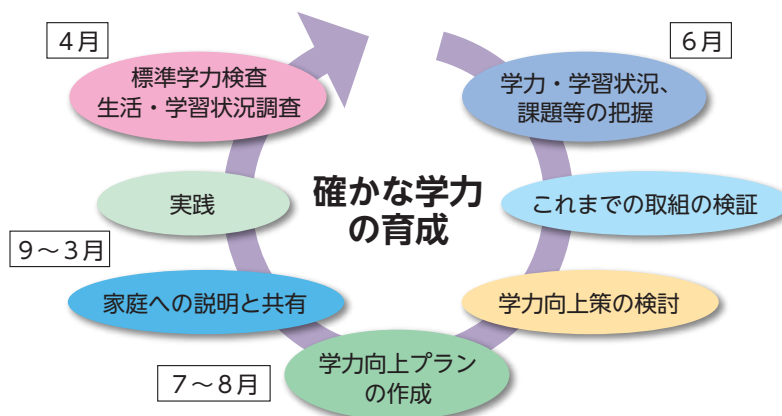


## 1 施策について

- 「学力、生活・学習状況の的確な把握」は、「仙台市教育構想2021」の基本方針Ⅱ「健やかな心身を備え、豊かな人生を拓く力を育てる学校教育」に関連しています。
- 目標達成のためのA～Eの領域の点検・評価のための視点として、成果や課題を把握するよう進めていきます。
- 仙台市標準学力検査
  - ・児童生徒の一人ひとりの学力の定着状況を的確に把握し、指導に生かすとともに、個に応じたきめ細かな指導の充実を図ります。
  - ・各学校において、目標値や全市における自校の状況を踏まえ、学力向上に関する教育の成果と課題を分析し、学習指導の工夫・改善を図ります。
  - ・児童生徒の学力の現状や課題を全市的な規模で的確に把握・分析することによって、学力向上に関する教育施策の成果と課題を検証し、より効果的改善を図ります。
- 仙台市生活・学習状況調査
  - ・児童生徒の生活習慣や学習環境を的確に把握し指導に生かします。
  - ・各学校において、自校の状況を踏まえ、生活・学習状況に関する教育の成果と課題を把握・分析し、指導の工夫・改善を図ります。
  - ・児童生徒の生活習慣や学習状況等を全市的な規模で的確に把握・分析することによって、生活・学習状況に関する様々な教育施策の成果と課題を検証します。また、併せて仙台市標準学力検査の結果と生活のあり方の関係を明らかにし、確かな学力の育成に役立てます。
- 全国学力・学習状況調査
  - ・児童生徒への指導の充実や学習状況の改善などに役立てます。
  - ・結果を基に教育施策の課題の改善を図るとともに、その取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善に役立てます。

## 2 今後の方向性

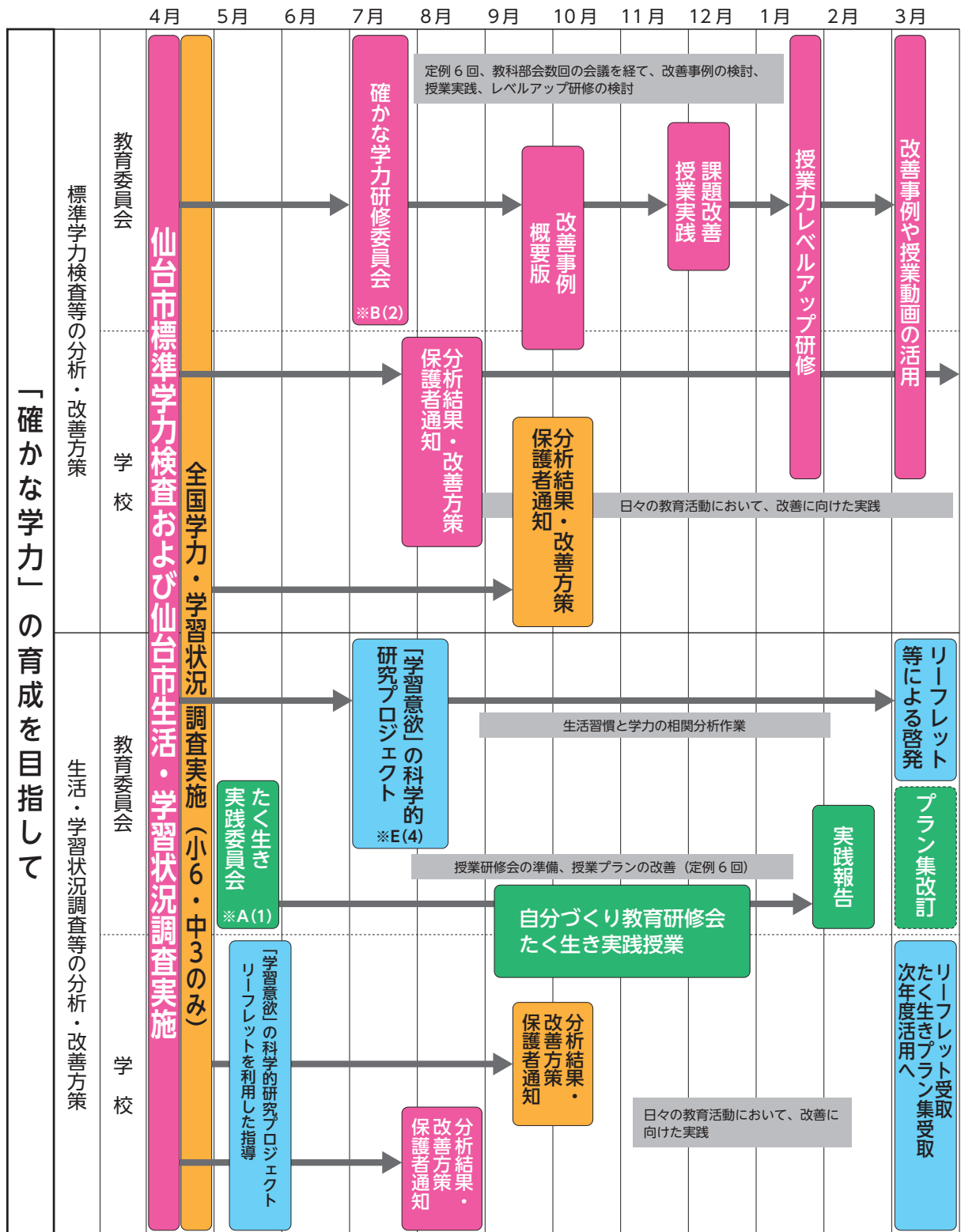
- 仙台市標準学力検査は、児童生徒一人ひとりの学習到達度の目安を客観的に把握するもので、この結果を有効活用することにより、すべての子どもたちの可能性を広げるために分かる授業づくりや個に応じたきめ細かな指導などの授業改善につなげます。各学校においても自校の成果と課題を的確に把握し、授業の指導方法の工夫・改善につなげていきます。



- 仙台市生活・学習状況調査は、児童生徒の学習状況や生活習慣、学習環境の現状を把握するものです。そこから教育の成果と課題を把握分析することで、指導の工夫・改善につなげていきます。
- 仙台市標準学力検査や仙台市生活・学習状況調査の結果、全国学力・学習状況調査の結果は、各施策・事業の状況を確認し、改善を行うことにも利用していきます。

### 3 点検・評価の進め方

- 仙台市標準学力検査の問題について、児童生徒の学習到達の目安が把握できるか等の視点で、随時点検していきます。
- 仙台市生活・学習状況調査の質問項目について、児童生徒の学習状況や生活習慣、学習環境の現状を的確に把握できるか等の視点で、随時点検していきます。
- 仙台市標準学力検査や仙台市生活・学習状況調査等の結果については、下記のような計画で結果分析及び課題改善の取組を進めていきます。



## 第4章 本プランの推進体制

### 1. 計画の進行管理

本プランの各施策の達成状況等を把握していくため、以下のとおり進行管理及び検証を行います。

- (1) 「仙台市標準学力検査」及び「仙台市生活・学習状況調査」の結果、「全国学力・学習状況調査」の結果から、詳細な分析を行い、各領域の検証と児童生徒の学力の定着状況を把握していきます。
- (2) 本プランに基づき執行する事業については、毎年度、施策の取組状況をねらいに沿って検証していきます。その際、各領域の視点や教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（点検・評価）を活用し、検証を進めていきます。
- (3) 前年度の取組状況についての点検・評価を踏まえ、社会環境や教育課題の変化を捉えつつ、適宜施策の改善を図りながら進めていきます。
- (4) 令和6年度末に、仙台市確かな学力育成プラン検証委員会を設置し、プランの検証と計画期間後半の方向性について検討を行います。

### 2. 多様な主体との連携・協働の推進

確かな学力の育成を実現するためには、地域や企業等の各種団体、大学など、多様な主体との連携・協働が必要不可欠です。本プランのねらいを共有するとともに、これまで以上に連携を強化していくことが重要です。各主体が持つノウハウや情報・課題の共有を図り、効果的な事業の展開を進めていきます。

### 3. 課題やニーズに応じた的確な対応

社会情勢が急速な展開を続ける中で、教育が対応すべき課題やニーズも刻々と変化しています。これらを解決するために状況や情報を迅速に把握し、取り組まなければならない対策を判断して、的確な対応に努めていきます。

### 4. 情報の発信

施策の実施や本プランの目標の達成、さらには確かな学力の育成の実現のために、児童生徒に関わる保護者や地域の方々等、市民の理解と協力が不可欠であり、そのためには分かりやすく丁寧な情報提供が必要となることから、ホームページ等による積極的な情報の発信に努めていきます。



## ●第3期「確かな学力育成プラン」検討委員会

### 委員名簿

	氏名	所属等
委員長	児玉 忠	宮城教育大学 教授
副委員長	稲垣 忠	東北学院大学 教授
委員	我妻 良行	片平丁小学校 校長
委員	鹿野 恵美子	東六番丁小学校支援地域本部 スーパーバイザー
委員	齋藤 孝志	株式会社サイコー 代表取締役
委員	齋藤 亘弘	八乙女中学校 校長
委員	佐々木 大	INTILAQ 東北イノベーションセンター長
委員	佐藤 真奈	仙台市PTA協議会 副会長
委員	千葉 恵美	仙台市PTA協議会 副会長

### 協議経過

- 第1回検討委員会** ・委員長等選出  
令和4年4月28日 ・教育長より検討依頼  
・現行プラン概要と進捗状況  
・今後の進め方
- 第2回検討委員会** ・新プランの骨子案  
令和4年6月14日 ・グループワーク「仙台市の教育に期待すること」
- 第3回検討委員会** ・新プランの中間案の内容について  
令和4年9月8日
- 第4回検討委員会** ・新プランの中間案に関するパブリックコメントについて  
令和4年12月7日 ・新プランの最終案に向けて
- 第5回検討委員会** ・新プランの最終案について  
令和5年1月16日

## 第3期「確かな学力育成プラン」検討委員会設置要綱

(令和4年3月11日教育長決裁)

### (設置)

第1条 教育基本法第17条第2項に基づいて策定される教育振興基本計画を踏まえ、児童・生徒の学力向上を図るための「確かな学力育成プラン」の内容について検討するため、第3期「確かな学力育成プラン」検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### (所掌事項)

第2条 委員会は、学校、家庭及び地域が一体となって本市の児童生徒の確かな学力向上を目指すための、「確かな学力育成プラン」に関する事項を検討し、同計画の案を教育長に報告する。

### (組織等)

第3条 委員会は学識経験者及び小中学校長、市PTA協議会関係者、学校支援地域本部関係者、企業関係者、その他特に必要と認める者をもって組織し、委員は、教育長が委嘱又は任命する。

2 委員会は、前条に規定する報告が終了したときに解散する。

### (委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。

3 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故のあるときは、その職務を代理する。

### (会議)

第5条 委員長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その意見を聴き、又は説明を求めることができる。

### (事務局)

第6条 委員会の事務局は、教育局学校教育部学びの連携推進室に置く。

### (その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

### 附則

#### (施行期日)

1 この要綱は、令和4年3月14日から施行する。

#### (要綱の失効)

2 この要綱は、委員会の解散をもって効力を失う。

# 仙台市確かな学力育成プラン2023

---

令和5年3月

編集・発行 仙台市教育委員会学校教育部学びの連携推進室  
仙台市青葉区上杉一丁目5番12号  
TEL 022-214-8438



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO2削減や地産地消に貢献し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷し、印刷用の紙へリサイクルできます。

仙台市  
確かな学力  
育成プラン  
2023

～すべての子どもたちの  
可能性を広げるために～

